

海外技術協力叢書 I

カンボジア篇

保存用

第三次カンボジア五年計画
カンボジアの産業事情
カンボジアの畜産事情
カンボジアの医療事情
カンボジアの電気通信事情
カンボジアの国勢

海外技術協力事業団

JICA LIBRARY



1048199[2]

海外技術協力叢書 I

カンボジア篇



海外技術協力事業団

国際協力事業団

受入 月日	'84. 5. 24	A1(0)9
登録No.	77384	0.736
		K-KA

目次

第一次カンボジア五ヶ年計画	1
1 五ヶ年計画の日標	5
2 主要な事業	7
3 付随的な狙い	10
4 財政的裏付	11
5 事業計画	11
カンボジアの農業事情	25
1 はしがき	27
2 カンボジア国の農業条件	28
3 農作物栽培の現状	33

4	カンボジア農業将来の展望	45
	カンボジアの畜産事情	49
1	行政組織	51
2	家畜	53
3	畜産物	60
4	家畜、畜産物の輸出入	64
5	家畜衛生	66
	カンボジアの医療事情	71
1	保健衛生対策の基本方針	73
2	疾病の状況	74
3	医療機関の状況	78
4	医療従事者	81

5	行政組織	83
6	財政状況	85
7	公衆衛生対策	87
8	あとがき	88
	カンボジアの電気通信事情	89
1	電話施設の現状	91
2	国際回線運用状況	93
3	指導状況	96
4	風土及び生活文化環境	98
5	アンコールワット見聞	102
6	現地生活の体験と感想	105
	カンボジアの印象	107
1	カンボジアの主要都市	109

14	雑感	127
13	魚捕	126
12	水浴	125
11	衛生について	123
10	交通機関	122
9	スポーツ	121
8	娯楽機関	119
7	家	118
6	赤坊の抱きかた	117
5	服装	116
4	人種	115
3	宗教及び政府	114
2	人口、面積及び地形	111

第一次カンボジア五ヶ年計画

後

藤

寛

(農林省大臣官房総務課)

第一次カンボジア五ケ年計画

カンボジアは産業開発五ケ年計画を一九五九年に立案、一九六〇年より其の実施に入り、目下着々と其の効果をあげつつあります。

そして一九六四年の五ケ年計画終了時には其の成果が大いに期待されています。

シヤヌーク王子 (Prince Norodom Sihanouk) 國家元首兼首相は五ケ年計画樹立に當り、「カンボジアは一九五四年に完全なる独立を回復した。以来物質的進歩の立遅れを補い、國の繁栄遂行に努力して来た。我々は此の第一次五ケ年計画が、今日尚不完全である經濟的独立を速かに遂行することを欲する。我々は、我々の國民の勇氣と神の助力をもって、此の五ケ年計画を達成することが出来るだろう」と述べています。

3 第一次カンボジア五ケ年計画

又、当面の責任者であるチーロン(NHIEK TIOULONG)計画大臣は、「第一次五ヶ年計画」は適格なる国際経済の助言に特別の注意を払って立案した。又設立にあたり、我々の二ヶ年計画の結果を考慮している。即ち過去二ヶ年間に於ける我国の国家経済の傾向と、我国の如き同一の自然条件をもった、アジア諸国における同様の計画の成功と失敗を参考にした。

我々是我々の自然と人間と財政的可能の範囲内で計画を確立することを真先に試みた。私は我々の目的が最小限のものであると思う。(中略)そして特に農業は重要で、農産物は、外貨を稼ぐ唯一の源であり、農産物の増加は、今尚お低い農村の人々の生活向上を強調するであろう。

最後に我々是我々の外国の友人達が、理解と同情をもって、我々の努力を理解するであろう」と、結んでおります。

日本、カンボジア経済技術協力協定により、我が国より贈与した十五億円も、此の五ヶ年計画の一環として組み込まれ、農業、牧畜、医療と夫々の部門に於て、相当のウエイトを占め、五ヶ年計画遂行のためには、重要な役割を演じています。

一 五ヶ年計画の目標

第一次五ヶ年計画は生産物開発を本質的な狙として、其の重点が次の分野におかれています。

1 農産物の多種多様化

農業は従来余りにも水稻に頼りすぎるくらいがあった。然しカンボジアの経済発展のためには、水稻以外の新しい作物の開発が絶対に必要である、と考えられています。

2 工業計画は、地方的特産物の変化を最も重要な基礎に置いた。

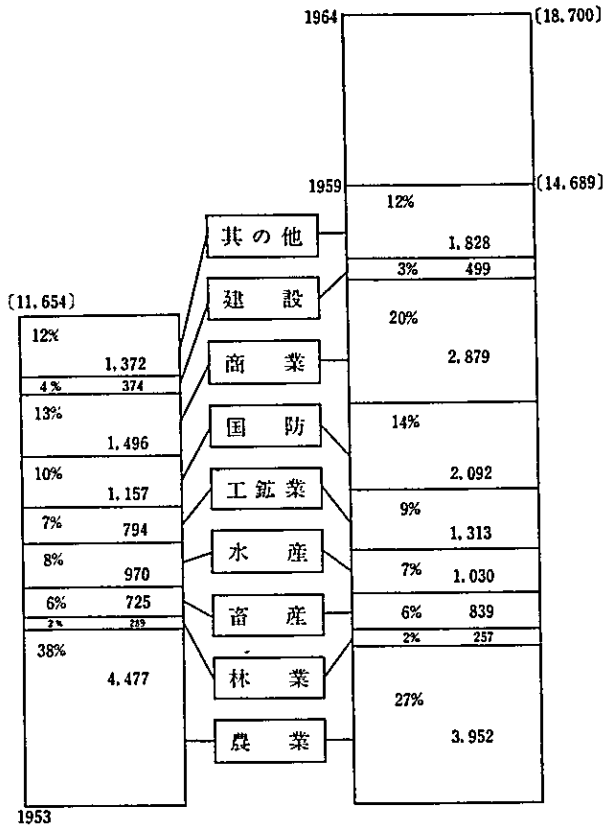
重工業若しくは類似の工業計画を立案するためには、国の資源の明細書を完全に得る迄は不可能である。これに反して其の国に於て、生産した生産物の地方的利用計画を遂行することは全く容易である。農業や産業の多種多様化のためには、其の計画は全く補足的なものであるということに注意されねばならない、としてあります。

要するに此のことは国家経済発展のためには、農業の開発が最も先決で重要であるということ強調していることとなります。更にこれにより此の五ヶ年計画完了時の国家経済の総生産額を試算

5 第一次カンボジア五ヶ年計画

付表1

国内総生産額 (単位100万リエル
(1956年の価値におけるリエル貨))



7 第一次カンボジア五ヶ年計画

付表2 公共投資額
(単位 100万リエル
(1956年の価値におけるリエル貨))

区 分	建設費	資材費	人件費	雑 費
生 産 物	2,289	622	209	80
40% 3,200				
基 礎 工 事	1,546	571	109	14
28% 2,240				
社 会 設 備	738	385	737	99
24.5% 1,960				
行 政 部 門	512	65	23	2
7.5% 600				
合 計	5,084	1,643	1,078	195
100% 8,000	63.5%	20.6%	13.5%	2.4%

して一九六四年には、一九五九年に比べて、総生産物一六%の増加を、亦、総生産額に於て、人口五百五十万に達することを見込んで、一九五九年の総生産額一千四百六十九万リエルに対し四百万リ

エルの増加を目標としています(付表1一九五六年度のリエル貨における見積)。

公共投資額の配分計画は付表2の如くであるが凡そ四百万リエルの総国内生産額の増加のためには約一千二百万リエルの投下資本を必要とする。そして其の中政府が三分の二の八百万リエル分の公共投資を計画した。残り四百万リエル分については、民間投資を政府は期待していません。

その中生産物投資額の内訳は付表3のとおりであります。

二 主要な事業

(1) 灌漑排水事業の開発

(2)

付表3 生産投資額

(単位 100万リエル)

電力の増加

区 分	金 額	各 項 目 別 比 率			
		建設費	資材費	人件費	雑 費
1 農 業	198.0	45%	10%	29%	16%
2. 農 業 機 械	263.0	77%	19%	—	—
3. 畜 産	204.9	42%	29%	29%	—
4. 林 業	135.0	42%	13%	27%	18%
5. 漁 業	72.0	31%	8%	51%	10%
6. 工 鉱 業	741.8	62%	37%	—	—
7. 発 電	191.0	24%	73%	—	3%
8. 水 供 給	307.0	86%	12%	—	—
9. 国 家 企 業	300.0	100%	—	—	—
10. 地方未開地開拓	300.0	100%	—	—	—
11. 生産援助	250.0	100%	—	—	—
12. 観 光	150.0	100%	—	—	—
13. 農 業 学 校	71.3	70%	7%	18%	—
14. 牧 場 設 立	15.0	100%	—	—	—
合 計	3,200.0				

新農地の急速なる開発と、既耕地の適正なる利用を主目的としている。確かに未開墾地が多く、耕地は国道に沿った部分に見られ、耕地面積は国土の十%強百八十三万七千ヘクタールと云われております。或る程度水のコントロールが出来れば、耕地は直ちに増大され、亦、乾季に於る土地利用に大いに貢献されると思う。このことは、直ちに作物の多種多様化と関連している。

9 第一次カンボジア五ヶ年計画

現在メコン河の多目的ダムがエカフェに依って研究、実地調査が行われているが、政府はメコン河利用研究は尚お五ヶ年を要するだろうといっております。故に新発電所の建設と既設の発電所の補強整備に重点がおかれている。これにより、五ヶ年計画に依る工業施設に対して充分なる電力の供給が出来るかとされています。

(3) 基礎構造の整備強化

シヤヌークビル港（一九六〇年四月フランスの援助による此の国唯一の海港）及び道路網の整備強化並びに飛行場の近代化に重点がおかれてある。

(4) 教育の発展

国民の体位向上、高校教育及び技術者教育に重点がおかれ、更に既設のものは改良強化されることになっている。現在国内の各所に新校舎が續々と建てられている。

(5) 公共衛生

プノンペン市及び各州の公共衛生設備は非常に増加強化され、更にマラリヤ予防に重点がおかれている。都市においては、現在マラリヤは絶無といつてよいのではないかと思われる。

以上が主なる五ヶ年計画の主要事業として考えられております。

三 付随的な狙い

- (1) 働く条件の改善
作物の多義多様化と工業計画は、農民に働く場所を与え、亦、技術学校卒業者には働き場所を供給する。
 - (2) 富の公平なる分配
国家収入の国民分配における不平等を減じて、国民生活の向上を図る。特に下層階級の国民に対して。
 - (3) 観光施設の改善
大きな努力がカンボジアにおける国際観光開発、特にアンコールワットについて、払われている。
- 以上の事項が、主要なる事業に付随して効果があがるだろうということが、カンボジア政府によって期待されている。

11 第一次カンボジア五ケ年計画

第一次五ケ年計画の主要な事業は次のとおりとなっています。

付表4 財政方向
(単位 100万里エル
(1956年の価値によるリエル貨))

区 分	1960	1961— 1964	合 計
1. 国内の財源	850	4,325	5,175
2. 外国援助額	650	2,175	2,825
合 計	1,500	6,500	8,000

四 財政的裏付

五ケ年計画実施にあたっての財政的裏付は、付表4の如くでありまして、その財源はカンボジア自身の国家収入と、外国援助費からなっており、その割合は、自国収入が六四・七%、外国援助が三五・三%となっている。

政府は五ケ年計画を速やかに、スムーズに運営するために、特別の会計規則の制定、会計手続の簡素化五ケ年計画事業遂行手続き及び人員の補充を行なって、積極的に実施をしています。

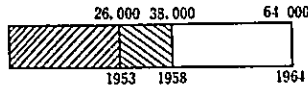
五 事業計画

(2) 畜産と林業
 のようではありません。

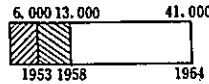
付表5

1. 灌溉排水計画

灌溉面積 (ヘクタール)



洪水に対する防御面積



2. 農作物の種類

区 分	1953	1958	1964
水 稲	1,407,000 t	1,382,000 t	1,800,000 t
ゴ ム	30,643 ha	33,395 ha	45,000 ha
棉 花	400 t	200 t	6,000 t
コ ヒ	—	—	500 t
ヒ マ シ 油	—	300 t	5,000 t
ト ウ モ ロ コ シ	100,000 t	96,000 t	200,000 t
砂 糖 き び	—	100 t	60,000 t

農業関係の主要なる事業は、灌溉排水と農作物の多種多様化で、その現況と計画目標は付表5のとおりであります。
 カンボジアに於ては、排水ということはさして重要ではなく、寧ろ雨季において、メコン河はじめ各河川の洪水を如何にして防禦するかというこ

13 第一次カンボジア五ケ年計画

付表6

1. 畜 産

区 分	1953	1958	1964
1. 種牛の選別数	—	—	1年当り 250頭
2. 豚繁殖試験場数	—	ケ所 6	ケ所 16
3. 牛と水牛数	千頭 1,222	千頭 1,352	千頭 1,500

2. 林 業

区 分	1953	1958	1964
1. 植 林 面 積	ha 9.5	ha 59.7	ha 5,000
2. 森林管理面積	千ha 180	千ha 180	千ha 266
3. 木材産出量	千m ³ 225	千m ³ 185	千m ³ 500
4. 柱 と 杭 木	—	—	千m ³ 100

畜産及び林業関係の現況と計画目標は付表6のとおりであります。

(3) 工 業

工業計画の主なるものをあげると付表7のとおりであります。

(4) 電 力 と 水 道

電力と水道関係の計画は付表8のとおりとなっております。

(5) 基礎工事の整備強化

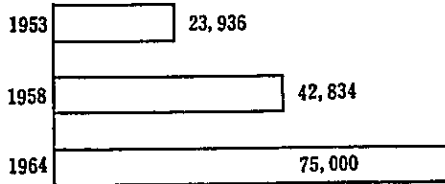
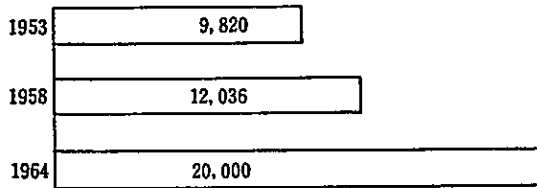
国 道

国道の年次別延べ軒数は付表9のとおり

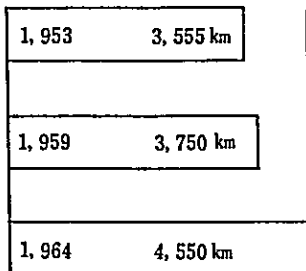
でありまして、新道路の建設計画は、バイリン（バタンバン州、ジルコンの産地として有名）シヤヌークビルまで、カラダモン山脈を横切る産業道路と、クラチエからダック・ダム、及びストーンレーンからアンダン・ピック並びにロムハアイに至る道路建設が予定され、目下バイリン、シ

付表8

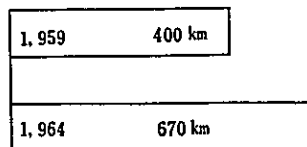
1. 電力産出量 (単位1000kW)

2. 水道 (単位1000m³)

付表9 国道の建設



付表10 鉄道



付表7 工業

区 分	1958	1964
紡 績	933,000 m	6,000,000 m
絹	5,100 m	10,000 m
製 紙	300 t	5,000 t
合 板	—	36,000 m ³
セ メ ン ト	—	50,000 t
燐 酸	—	1,000 t
ア ル コ ー ル	90,000 kl	100,000 kl
砂 糖	—	16,000 t
煙 草	1,000 百万本	2,000 百万本
2馬力シトロエン	720 台	2,000 台
ト ラ ッ ク	—	90,000 本
タイヤ 乗 用 車	—	45,000 本

ヤヌークビル間の道路は測量中であります。

亦、トンレーサップには新しい架橋工事が富士車輛によって目下建設中、来年中に完成の予定であり、亦、スレーボックの橋の改築が予定されております。

鉄道及び飛行場

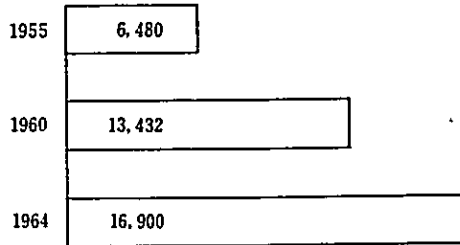
カンボジアの鉄道は、現在ブノンペンからタイ国境のポイベット迄の一本があるきりであります。単線で狭軌であります。新鉄道が現在ブノンペンからシヤヌークビル迄、チエンコスロバキヤの援助で建設中で二、三年内に完成が予定されています。更にシヤヌークビル港の整備強化も計画され、鉄道の完成が待たれている。(付表10)

ポチントン飛行場については、ジェット機発着のため、二・四軒の滑走路延長が計画されている。

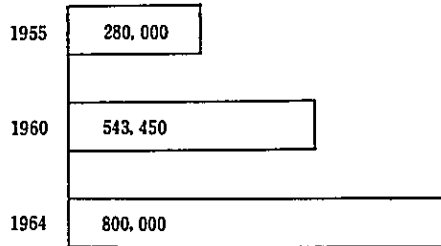
付表13

1. 小学校

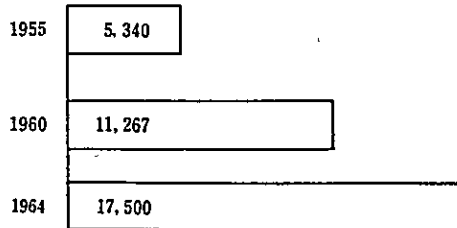
a. 学級数



b. 学生数



c. 先生数



通 信 付表11

(1) 郵便局数

1953	36
1958	44
1964	54

(2) 電話加入数

1953	1,136
1958	1,700
1964	5,500

教 育

であります。

(6) 社会部門に於ける主なる計画は次のとおり

社会部門に於ける投資

とおりであります。

尚お、建設事業の資金配分計画は付表12の

現在試験放送中であります。

ンも建設中で、日本電気がその工事にあたり、

に切り替えるべく、計画中です。テレビジヨ

話になっていきます。目下地方都市も自動電話

話になり、既にブノンペン市では大部分が自動電

話と設置が計画され、沖電気がその建設にあ

たり、既にブノンペン市に於ては、自動電話の建

設と設置が計画され、沖電気がその建設にあ

たり、既にブノンペン市に於ては、自動電話の建

設と設置が計画され、沖電気がその建設にあ

たり、既にブノンペン市に於ては、自動電話の建

設と設置が計画され、沖電気がその建設にあ

たり、既にブノンペン市に於ては、自動電話の建

設と設置が計画され、沖電気がその建設にあ

付表12 建設事業の投資額
(単位 100万リエル)

区 分	金 額	建設費	資材費	人件費	雑 費
1. 道路と橋	1,080	86%	11%	—	—
2 鉄 道	128	33%	66%	—	—
3. 港	368	71%	29%	—	—
4. 運 河	22	73%	18%	—	9%
5 飛 行 場	250	76%	13%	7%	—
6 通 信	300	24%	61%	15%	—
7. 気 象	92	29%	53%	18%	—
合 計	2,240				

其の重点は次のとおりであります。

イ、ソ連援助の総合病院五〇〇ベッドの開設。既に一九六〇年より診療を開始、国民の保健に

現在迄の教育状況及び五ヶ年計画は付表13のとおりでありまして、其の重点は次のとおりであります。

イ、科学部と商業高校の建設

ロ、バタンボンとコンボンチャムに技術

専門学校の建設

ハ、美術工芸学校、師範専門学校及び教育

センターの拡充

ニ、先生のための宿泊設備の建設

(7) 公 共 衛 生

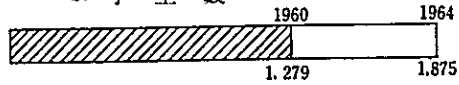
現在迄の公共衛生設備、医者及び看護員の数及び五ヶ年計画は付表14のとおりでありまして、

2. 師範学校

a. 学級数

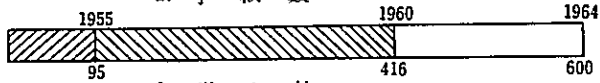


b. 学生数



3. 中学校

a. 学級数

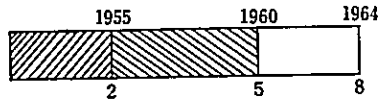


b. 学生数

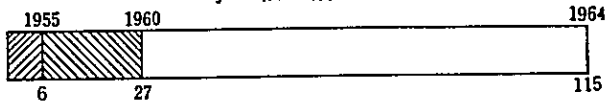


4. 技術学校

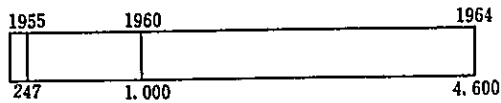
a. 学校数



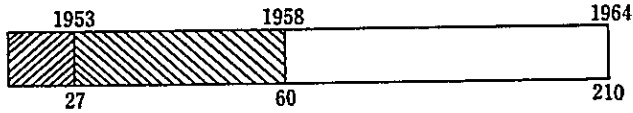
b. 学級数



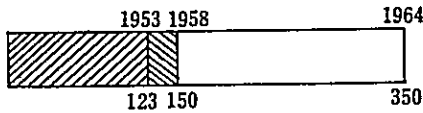
c. 学生数



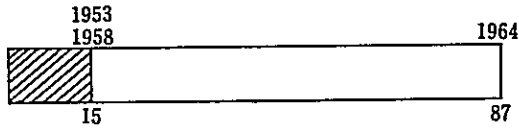
1. 産 婆 付表14



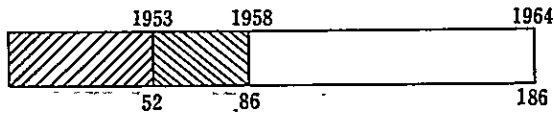
2. 補助産婆



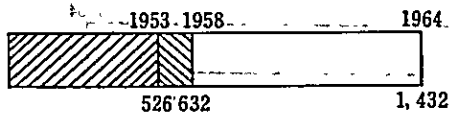
3. 医 者



4. 保 健 所

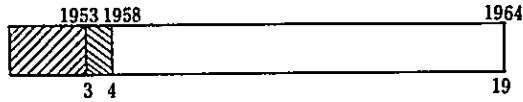


5. 看護員(男)

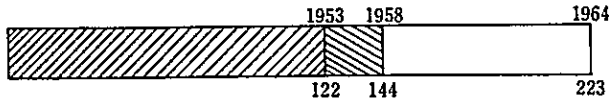


21 第一次カンボジア五ケ年計画

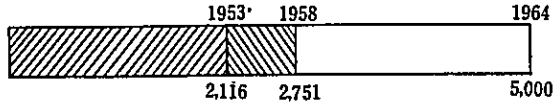
6. 薬 劑 師



7. 公共病院



8. 病 床



社会部門部門別投資額
(単位 100万リエル)

区 分	金 額	建設費	資材費	人件費	雑 費
1. 教 育	1,138	37%	14%	41%	8%
2. 公共衛生	691	40%	26%	34%	—
3. 社会活動	71	33%	28%	28%	11%
4 宣 伝	60	27%	36%	32%	5%
合 計	1,960				

口、各州に於て、産院及び幼児用健康相
多大の効果をあげています。

談所の建設

(8) 主要な行政設備

行政部門における主要なる計画は次のとおりであります。

- 1 シヤヌークビル港の整備強化
 - 2 ボコール高原の観光施設の整備拡張
 - 3 プノンペンにおける国立劇場及び官庁の建設
 - イ 国立劇場建設
大林組が工事施行の予定とまいてている。
 - ロ 計画省、大蔵省の庁舎建設
目下アメリカの援助で建設中
 - ハ 国会議事堂の建設
大林組が技術指導を行い、一九六一年に完成、世界仏教会議場として使用した。
- 各部門別の投資額は付表15のとおりであります。

付表15 行政部門計画別投資

(単位 100万リエル)

区 分	金 額	建設費	資材費	人件費	雑 費
1. 都市計画	150	95%	4%	—	—
2. 官庁建物	373	100%	—	—	—
3. 運輸行政	39	20%	72%	8%	—
4. 人口センサス	24	8%	92%	—	—
5. 計画行政	14	—	43%	43%	14%
合 計	600				

23 第一次カンボジア五ヶ年計画

以上ごく簡単に要点のみ記しました。語学力の不足から、拙い点は多々あると思いますが、幾らか御参考になれば幸甚に思います。

最後に日本、カンボジア経済技術協力協定による日本援助が、此の五ヶ年計画の一環として、農業、畜産、衛生の各部門で重要な役割をなしております。幸い今年十月一日より愈々、建築工事にかかり、一年後には完成の予定であります。建築完成後各センター運営のため、多数のエキスパートが派遣される予定であります。日本もカンボジア政府も、その成果に期待がかけられております。

カンボジアの農業事情

白石代吉
（元関東農試場長）

一 は し が き

カンボジア国の面積は略一八万平方軒で北海道の約二倍の大きさにあたる。人口は五〇〇万余と称せられて居る。東側ラオスとの国境及び西側タイ国との国境に、比較的高い山を含む山脈が南北に走り、北側は低い山波でタイ国に堺して居る。南側はメコン河の作った平坦地に南ヴェトナムとの国境が設定されて居り、西側の南部一部がタイ湾に臨んで居る。

中央平坦な大部分は、海成沖積層に属し、その中央部より稍々北西寄りに、トンレサップ（グラ\nンラック湖）と呼ばれる水面があり、太古の面影を残して居る。低水位時の面積三千平方軒、洪水時に凡そ一万平方軒に拡がる。

平坦部の稍々東寄りを、大メコン（湄江）河が南向し、コンボンチャム市（磅針市）の近くで西折し、プノンペン市（金辺市）の東部で南向する屈折部に、グランラックから流下して来るトレン河が注ぎ込んで居る。

トンレ河は通常七月から十月頃迄は逆流する珍らしい現象を示す。

主要な耕地はこの平坦部に集団し、且つ地形上から可耕未墾地も多くこの地帯にあると云える。全人口の凡そ八〇乃至九〇パーセンは農民であり、ゴム林経営を除いては、外に、目ぼしい産業のないこの国としては、農業が有利となり、農家が繁栄することが、直接国家の繁栄に繋がると云って良い。農業技術の改善を重要施策としてこの国で取り上げて居ることは、当然のことである。

二 カンボジア国の農業条件

一、気 象

カンボジア国は、略々北緯一度三五分から一五度一分、略々東経一一一度六分から一一六度五八分の間位に居り、完全な熱帯圏にあるから、勿論気象は熱帯型である。

イ、気 温

全国二〇ヶ所の気象観測所に於ける測定記録によれば、現在迄の最高気温は摂氏四〇・九度（四月）最低気温は摂氏九・五度（一月）である。この国の気温変化の一例として、プノンペンに於ける年間気温の記録を示せば次の通りである。

29 カンボジア農業事情

第一表 月気温度 (攝氏度)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
平均	26.0	27.5	28.9	29.4	28.5	28.0	27.5	27.6	27.2	27.1	26.6	25.5
最高	36.3	36.7	39.0	40.5	38.5	38.4	36.6	36.0	35.5	34.4	34.4	34.8
最低	13.3	15.2	19.0	17.9	20.6	21.2	20.1	22.0	21.9	20.8	16.8	14.4

プノンベンの年平均気温は二七・五度、乾期の終期四月には気温は最高となり、雨期の終り或は乾期の始めである一二月が最低気温となつて居る。

口 降 雨 量

全国記録に於て、年雨量の最高は七・九七二ミリメートル、最低は一・二二ミリメートルで大きな差がある。

月降雨量は七月の七八九ミリメートルが最高記録、之に次で八月の六四六ミリメートル、九月の五七六ミリメートルが記録されて居る。一月には月降雨量が五ミリメートルに達しない年が二ケ年に一回以上の割合にあり、二月、三月、十一月、四月の順に五ミリメートル以下の降雨量の年数は急に減つて居る。

過去五〇ケ年の記録によればプノンベンに於ける、平均年雨量は一三九四・三ミリメートル、年雨量の最大は二三一〇ミリメートル、最低は九三六ミリメートルである。

第二表 月雨量表 (mm)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
項目												
平均雨量	8.5	9.4	36.2	79.0	142.0	145.0	152.3	157.4	230.3	253.8	138.5	42.0
最高雨量	57.0	127.0	193.0	359.0	395.0	393.0	359.0	360.0	443.0	650.0	298.0	176.0
最低雨量	0	0	0	—	30.0	27.0	47.0	44.0	93.0	63.0	2.0	0

第三表 水面蒸発月量 (mm)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
蒸発量	111.6	117.6	151.9	129.0	99.2	105.0	93.0	80.6	60.0	62.0	66.0	89.9

ハ、蒸発量

水面蒸発量は平均年量一一六五・八ミリメートル（ブノンベン）が記録されて居る。一一八ヶ所の気象観測所に於ける最低年雨量の記録のうち六八観測所のものが年蒸発量以下になつて居る。蒸発量の月別量は第三表の通りである。

三月に於ける月蒸発量は最高で一五一・九ミリメートル、蒸発日量は五ミリメートルとなる、四月に於ける一二九ミリメートルがこれに次ぎ、月蒸発量の最低は九月に於ける六〇ミリメートルで、この日量は二ミリメートルである。

月平均気温の最高が四月、最低が一二月であるのと趣を異にして居る。一方月雨量が四月は三月の倍量を超し、九月の月雨量が一〇月の最高月雨量に次ぐ多量であることに關係するものか。

ニ 其他

地理的の位置の故に颱風の襲来はないが、七月から九月にかけて強い風があり秒速三〇米のものが記録されて居る。屢々突風（秒速四〇米のものが記録されて居る）や旋風は起る。時に風倒木或は脆い家屋の倒伏が風により起る。又豪雨に風が伴えば出穂後の稲或は伸長成長の進んだ稲の倒伏の原因ともなる、常に見る現象である。

二、土壤、地形

玄武岩の風化により生成された赤色土（テールルージュ）及び、石灰岩地帯に生成された黒色土（テールノア）と呼ばれる肥沃な土が局部的にあるが、全般的にはインドシナ砂岩の風化土からなる。あまり肥沃でない。そして屢々酸性の強くなったものが広く分布して居る。只洪水期にメコンの河水が湛水する地帯には、この河が運ぶ微細粒子により絶えず土地の生産力が蓄積され或は更新されて居る土壤がある。又小河川の下流域には地力の低い砂質土壤が分布して居る。

三、労働力

牛と水牛とは、重要な農作業動力源である。両役畜とも全国的に分布して居るが、年間を通じ水面の多い低地帯には水牛が多く飼われ、早く乾田化する地帯乃至は畑作地帯に於ては牛の数が優勢を示す。牛、水牛による作業は例外なしに二頭立てで行われて居る。多くの場合に「ゆひ」に類す

ることが行われて居るらしく、一枚の水田に数組、時には一〇組を越える、牛、又は水牛が耕起又は代掻を行なつて居るのを常に見る。このことは人力に於ても同様で田植や收穫作業にそれを見る。近年はフアーガスン級のホイールトラクタが、耕起作業を行なつて居るのが、多く眼につくようになった。大面積を自営する農家に於て、或は賃耕目的を以つて購入されて居る。この種のトラクタは、恐らく今後急速に増加するものと思われる。それは、能率の高い動力農具を活用することにより、炎天下に於ての作業時間を、なるべく短縮したいと云う願望を充たすことが出来、その上、農作業を適時に行い得ることは、自然、災害を避ける道にも通ずるからである。畜力による場合には、雨期に入つてから、相当の雨量を見てからでなければ、耕起作業を始め得ないのに反し、動力源にトラクタを用いる場合には、早目に耕起を始めることが出来、而も速に之を終ることが出来る。これらのことは、直播慣行地帯に於ては、稲の幼植物を、浅い湛水害から守る上に、欠くことの出ない要件なのである。

四、耕 地

農耕地面積全体の統計は明らかでない。水稻の場合には、作付面積よりも、收穫面積が重視されるのが実状である。この收穫面積は、年により著しい変異を示す。最近一〇ケ年に於ける收穫面積

の最大は一・三五五千ヘクター（一九五九―六〇年）最小は百万ヘクター（一九五五―五六年）であったが、全体の傾向から見れば、収穫面積は、逐年増加の傾向をもつことが判る。一九三六年を起点年とした場合には、一ケ年の増加量は、一八・六〇〇ヘクターである。尚お一九四六年を起点年とした最近一五ケ年に於ける傾向から、増加量は二八・五五〇ヘクターとなることが判る。即ち近年に於ける増加趨勢は著しいものがある。

畑面積の統計は明らかではない。それは、畑作物は多くの場合、作付期の変異が著しく、反復作付も行なわれるから、実態を捉え難いばかりでなく、焼畑形式による畑作経営があり、畑面積そのものが、常に変動するからである。国内を旅行した場合に、奨励作物が、多く新しく拓かれた土地に、作付けられてあるのが眼につく。最近では棉、ココ椰子等はその例を見る。又一面洪水期間（その始めの月日及びその終りの月日）は、年により異り、之に伴い畑作々付の状況も変わる。

三 農作物栽培の現状

前に述べたこの国の気象条件で明らかのように、完全な熱帯的性格のものである故に、熱帯圏に

ある作物は、凡べての種類のものを栽培し得ると云える。

カンボジア国に於ては、雨期と乾期とが判然と別れて居るが、雨期中と雖も、降雨は一般に苛烈でなく、スコール性であるから、植物の同化作用が妨げられる程の日照不足は絶対に起らない。植物の生育環境としては、恵まれた状態であると云える。従つて、現在栽培されて居る作物は、次に列挙するように多種に及んで居る。

普通作物 稲、玉蜀黍、緑豆、大豆、落花生、甘藷、胡麻、カツサバ、パルミラヤシ、ココヤシ。

工芸作物 苧麻、棉、カボック、黄麻、苧麻、桑。

嗜好作物 胡椒、珈琲、カカオ、茶、檳榔子、キンマ、煙草。

蔬菜類

(1) 葉菜類 白菜、甘藍、体菜、チサ、エンツァイ、花椰菜、葱、葱頭、ニンニク、ニラ

(2) 根菜類 大根、蕪、ニンジン、ショウガ、蓮根

(3) 果菜類 胡瓜、茄子、冬瓜、西瓜、南瓜、苦瓜、ヘチマ、インゲン、ササゲ、

果 樹

(4) 年間供給されるもの オレンジ、バナナ、木瓜、パインナップル

(ロ) 季節のあるもの　　ドリアン、マンゴウ、マンゴスチン、サボジュラ、パラミツ、紅毛

タン、ライチ、シャカ頭、カニステル、牛心梨

主要な作物数種について述べて見る。

(一) 普通作物

(イ) 稲

米はカンボジア国民の主食であり、且つ輸出農産物の大宗として、農産物中第一の重要性を持つもので、最近一〇ケ年中の豊産年に於て一・五四三千トン（一九六〇—六一年度）の籾生産高を記録し、最凶年に於て七七五千トン（一九五四—五五年度）の生産高が記録されて居るが、全体の傾向としては、籾生産高は年々増加をみつつある。一九三六年を起点年とした場合に、年増加生産量は三一・一四〇トンと計算される。一九四六年を起点年とした場合には、年増加生産量は三六・二三〇トンとなり、近年に於ける増加生産量が急速に上昇して居ることが判る。

収穫面積が年々増加傾向にあること（別記）と、一般農民の関心が増産に向けられて居ることにより籾の生産増加となって現われた。この生産高のうち白米として年々二〇万トン或はそれ以上の輸出が行われる。

稲作技術は伝統的やり方を踏襲して居るに過ぎないようである。近時水利問題が取り上げられ、五ヶ年計画に於ても、灌漑の改良が重視されて居るが、州によりその面積には著しい差がある。その完成により、稲の栽培法も変わる。経営面積の比較的大きいバットアンバン州に於ては直播が主として行われ、経営面積の小さい他の諸州に於ては、主として移植栽培法が行われて居るが、勿論部分的には、直播栽培も行われて居る。直播、移植何れの場合に於ても、現在の所、殆ど無肥料で栽培が行われて居る。

直播の場合には、畑作状態で、整地播種し、幼苗時代には、絶対に洪水を避けることになつて居る。発芽前後から、幼植物時代、ことに、胚乳により生育が保たれて居る根の浅いうちに、浅い灌水があれば、水温の異常上昇が起り、幼植物は高温障害を被つて、稲作は致命的打撃をうける。直播稲が、播種後五〇乃至七〇日経つた頃コーシースラウ、或はコープチョウと呼ばれる作業が行われる。コーシースラウとは、稲田に多数の牛を追い込んで、牛が稲と雑草とを喰ひ、同時に稲と雑草を足で踏みこませることを目的とするので、謂わば、稲の間引きと、雑草退治とを目的とする操作であると云える。

コープチョウとは、稲の生育しているままの田を、牛や水牛によつて鋤き起し、稲の一部と雑草

とが枯死することを考慮に入れて、行う作業である。一般に、この操作により、播種量（ヘクター当たり約八〇疔）の七五％の稲が残ることを期待し、雑草を絶やし、稲の生育の再出発を助長する作業である。田植と同様な効果を狙うものと云えよう。尚コープチュウの作業により、稲の一部と、雑草とを鋤き込むのであるから、青草を鋤き込んだ場合と同様な効果が伴い、且つ水田土壌面に沈澱して居る水中生物の遺骸も土中に反転され、共に施肥効果を現わすことが考えられるので、この国の、無肥料栽培の慣行に於ては、この操作を行うことにより稲に有利な条件を与えることになる。事実農家は、思う通りのコープチュウが行い得た年は、作柄は上乘だと云って居る。浮稲栽培、洪水期に、水深が一米を越すような地帯に於ては、浮稲が栽培される。勿論直播栽培である。

移植栽培の場合に、苗の養成には、畑苗代、水苗代の何れもが用いられるが、移植時の苗は、概ね三〇糶を越え、先端三分の一位を切断したものが植え込まれる。一般に直播栽培より、移植栽培の方が、収量は勝るとされて、農家は出来得るならば、移植栽培によりたいと考えて居る。

主たる稲の生育期間は雨期であるが、雨期の末期から、退水を追って、栽培の始められる地帯もある。この場合には、短期種が用いられるが、この栽培方式の末期に於ては、色々な揚水機による人為灌溉が行われて居る。

籾のヘクター当り収量に就いて見れば、最近一〇ケ年の全国平均に於て、最高は一・二六トン、最低は〇・六四トンであるが全般の傾向としては、毎年〇・〇〇六九トンの割に増加することを知る。品種、現在栽培されて居る品種は、大きく分けて、晩々生稲 (Tardif) 晩生稲 (Saison) 中生稲 (Maison) 早熟稲 (Hâtif) 及び浮稲との五つになるが、これ等を、日照時間の長短に対する感応性に基き分類すれば、晩々生稲、晩生稲、及び浮稲とは同様の反応を示し、中生稲と早熟稲とは夫々日照時間の長短に対し独特の反応を示す。外に小面積ずつながら、随意の時期に栽培され、日照時間に対し感応の鈍い一群があり、合せて四個の群に分たれることが明らかになった。

(四) 玉蜀黍

全国各地で栽培されて居るが、多くは生食用である。メコン河沿岸の洪水地域の畑地、焼畑等、肥沃地が輸出用玉蜀黍の生産地として、重視されて居る。国際価格に大きく支配されるこの作物は、労働生産性、土地生産性の低い場合は、不利であるので、現在のような無肥料栽培の下では、自然産地は肥沃地に限定される。玉蜀黍は輸出農作物として重視され、一代雑種の利用について、国家の努力が払われて居る。

(五) 大豆

食料として国内需要を充たす外、輸出された実績もある作物であり、生産技術の改善により、労働生産性を高めるならば、輸出農産物として、将来性のある作物である。根瘤菌と共生するこの作物は、休閒作或は輪栽作物として、大いに活用すべき作物であると考える。

(二) 緑 豆

もやし其他食料として、国内需要がある外、輸出農産物としては、その品質の良さが認められて居る作物である故に、労働並に土地生産性を高める工夫により、国際市場に優位を占め得る可能性がある。大豆と同様に、荳科植物の特質を生かし、農業経営に有利に組み入れる技術を研究することが望ましい。

(三) 甘 藷

国内何れの地域に於ても、栽培可能な作物である。耐旱性の強いこと、栽培が極めて容易である等の特質を活用し、作物災害対策用とし、又救荒作物として栽培することが、農家に利益をもたらすものと考えられる。

(四) 胡 麻

栽培の容易な油脂源であるから、優良品種の選抜が大きな問題である。

(ト) カッサバ

各地に栽培されて居るのを見るが、澱粉工場のない現在は、単に食用としての用途しかない、耐旱性の強い点を活用し、営農に組み入れる工夫がなされて然るべきである。

(チ) パルミラ椰子

砂糖椰子と呼ばれ、ブノンペンを中心として多く眼に入る、この国に於て消費される甘味源を供給するものとして、重要な作物である。増殖が奨励されて居る、各地に見られるこの植物の立ち姿から、農園を形成するのは少いようである、又自生して居る状態から推して、この植物はこの国の原産であるか、或は古い時代に導入されたものと思われる。

(リ) ココ椰子

砂糖椰子程広く分布して居らず、成木が少く、新植の稚木園が多く眼につく、国の奨励方針に依じたものである。この実状から見てこの作物はこの国の原産ではなく、導入の歴史も新しいものと思われる。コブラに作られるものは少く、多くは果肉の利用、椰子果水の利用と椰子酒製造等の目的を持つ。

(ロ) 油椰子

41 カンボジア農業事情

目下試作段階にある。

二 工芸作物

(イ) 蕉 麻

耐旱性が強く、肥料の吸収力も強い。畑作物としては栽培し易い作物である。国外からの需要に
応ずるために、増産すべき作物の一つである。需要方面の規格の検討を怠らず、栽培技術の改善を
図るべきであらう。

(ロ) 棉

目下栽培奨励の効果が現われて三カ年足らずで、需要（中共の援助による紡績工場が操業して居
る）を充たしてあまりある棉花生産を達成したことに對し、官民の努力に敬意を表する所である。
この拡大した棉作農家が、栽培技術の向上に努め、外国の顧客の要求を知り、それに応ずる棉花を
生産する努力を払うならば有力な棉花生産国となり得よう。

(ハ) 黄 麻

全国各地で栽培されて居る（自家用程度）のを見るが、現在は普通、粗皮が各種物件の結束用に
使われて居る程度である。国内で生産される粗或は白米が、凡べて麻袋を用器として居る現状に於

ては、速に麻袋の国内生産をすることは、重要な課題である。既に黄麻の栽培法を、一応会得して居る農家は多数に達して居るから、麻袋原料繊維の生産は、容易である。殊に黄麻は生育の初期を除けば、洪水に耐える力が強いから、栽培可能地は到る所にあると云えよう（一五〇万トンの穀は八〇疋入れて一八七五万袋が必要である）。

(二) カポック

全国到る所で、大小のこの木を見ることが可能であることは、この木が全国的に、適地を有ったことを意味する。市場の好みを怠りなく注意し繊維及び、種実の販路が開拓されなければならぬ。

三 嗜好作物

(イ) 胡椒

カンボット州のケップ地帯は、由緒ある産地であるが、最近根線虫の害が次第に激しくなり、生産が思わしくなく、新にカンボット市の西方、或はコンボンチャム州等に、産地を形成しようとの努力が、続けられて居る。この作物の栽培は、被蔭樹の利用が必要だとされて居るが、被蔭の生理学的研究は今後の課題である。

(ロ) 珈琲

最近バットアンバン州バイリンに、新しい珈琲園が拓かれて、一部は既に収穫が始められた。被蔭樹の活用がこの作物栽培の成否の鍵を握るものらしい。

(イ) カカオ

目下試作中であるが、この国の気象はこの作物に対しては問題はないらしい。各種条件と作物生理の関係を究めることにより、この国の特産となり得ると思われる。

(ニ) 茶

国内消費に應ずる量の生産を目標に、茶の栽培が企図されて居る。中共からの技術者がこの指導に当ることになって居る。

(ホ) 檳榔子及びキンマ

国内需要を充たすため、各地に見られるが、キンマ栽培は被覆栽培により、成績を挙げて居る。

(タケオ州)

四 蔬 菜

一般農家に於ては、蔬菜は僅に、自給用のものが栽培されて居るに過ぎない。不足分は野生のもの採集で用に当てる。尚お各種の香辛、調味用の草種が庭先きに植えられて居るのを見る。

蔬菜栽培專業農家は、概ね経営規模は小さいが、労力的に集約であるばかりでなく、堆厩肥の利用、蝙蝠糞の利用、更に化学肥料を施用し、灌水には多くの労力を注いで居る。

(4) 葉菜類

白菜、甘藍、チサ、カラシナ、葱、葱頭、ニラ、ニンニク、花椰菜、エンツァイ等が年間市場に出まわって居る。栽培技術や新品種の導入にも努力が払われて居る。最近にも葱頭は優品が生産され、日本のものに劣らぬと云う記事が出て居た。

なお近年、海拔千米の高地、ボコール(Bokor)で日本技術者(磯村勝氏)により白菜、甘藍、チサ、其他の蔬菜栽培が開拓され、生産品は首都プノンペンで好評を博して居る。平担部に於ける葉菜類の栽培には、灌漑が重要な作業で、概ね朝夕二回の給水を行わなければならない。

(ロ) 根菜類、大根、蕪、ニンジン、生姜、蓮根等は、年間市場に見られる。

(ハ) 果菜類、茄子、胡瓜、唐辛、南瓜、西瓜、冬瓜、メロン、ヘチマ、苦瓜、インゲン、ササゲ、バナナ花苞(苔)何れも量的差はあるが、概ね年間市場に見られる。最近西瓜が水田の裏作として、大々的に登場して来た。乾期の前半に、充分の根を張るようになれば、殆ど除草の必要もなく収穫が出来る。乾期に於ても地下水が比較的高い地帯に於て立派にこのことが成立する。

五 果 樹 類

オレンヂ、パイナップル、バナナ、木瓜等は何れも年間市場で見られる。時期的に品薄の場合はある。之等と異り、ドリアン、マンゴウ、マンゴスチン、サボデユラ、紅毛タン、バラミツ、ライチ、龍眼、カニステル、牛心梨、シヤカ頭、等は夫々季節がある。

之等の果樹類は、概ね改良の手が加えられて居らない。今後この面の努力が必要であると考ええる。

四 カンボジア農業将来の展望

特にカンボジア国に限ったことではないが、世界大戦後独立した多数の国々のうち、農業をその国の主要産業として、農業技術の改善と農業の発展とのため、真剣な努力を払って居る国が極めて多い事実を熟視すれば、今後農産物の、国際市場に於ける競争は、愈々苛烈になることは必然と思わなければならない。この場合、何れが、勝利の栄冠を得るかは、自ら明である。それは適地適産に徹した国が勝利者となるのである。こう云った所で、凡べての自然条件が申分なく整う場合はあり得ない。即ち何かが不足して居る場合が普通なのである。前に気象の項で述べたように、カンボ

シア国は自然条件で恵まれた面が多いが、水活用の面で欠けて居る。この欠点は人為は以て、人力を以て補わなければならないものである。謂うならば、土壤水分さえ充分に供給する道があるならば、特殊な地域を除けば、年間思う時期に、欲する作物の栽培が可能なのであるから、速に灌漑施設を整え、土壤水分管理を意のままにするようにし、施肥農業技術を確立するに到るならば、ここに農業天国が現出すると云って良からう。現在はこの国の多くの人々、殊に農業技術関係者の中に、施肥は経済性を欠くと云う考え方が優位を占めて居るが、施肥農業に経済性を与える技術の確立にこそ凡ゆる努力が払われるべきであらう。

カンボジアの国産産物

作物名	収穫面積 (ヘクタール)		生産高 (トン)		* 印欄は雨期だけの数字
	1959-60年	1960*61年	1959-60年	1960*61年	
籼米	1,355,000	1,300,000	1,419,200	1,300,000	
粟	106,500	38,820	122,200	45,800	
黍	800	1,230	4,500	6,900	
大豆	14,600	19,620	9,400	12,800	
豆	8,400	2,000	4,600	1,200	
椰子	2,100	8,500	—	—	
椰子	1,013,900*	1,000,000*	27,400	27,000	
椰子	4,900	3,100	2,500	1,550	
椰子	3,300	5,200	900	2,600	
椰子	50	700	38	500	
椰子	400,000*	803,500*	14,000,000*	32,140,000*	
椰子	1,200	—	1,940	—	
椰子	1,200	1,400	3,380	500	
椰子	1,273,600*	978,720*	5,000	3,900	
椰子	12,200	9,820	7,100	5,700	
椰子	1,004,400*	1,004,400*	2,000	1,500	
椰子	1,300	3,200	600	1,119	

十印 本数

×印 果数

カンボジアの畜産事情

及
川 浩 吉
（農 林 大 臣 官 房
海 外 技 術 協 力 官）

一 行政組織

中央に農業省があり、その中の畜産局（正確には、獣医畜産及び獣疫局）が、畜産行政を担当する。この局は、一九二〇年（仏国保護領時代）に獣医局として発足し、当時は牛疫等の家畜伝染病の防遏を主な任務としていたが、一九五三年（独立の年）以降、広い意味の畜産行政を担当している。すなわち、家畜の改良、家畜の統計、調査、試験、防疫、食肉、畜産物の検査、畜産に関する予算の執行、種畜場の管理、パストウール研究所との連絡事務などのほか、下級畜産技術者の養成、鶏の孵化、雛の払下、飼料の配合調製及び種畜場への配付等を行っている。

地方にあつては、一般行政については、ブノンペン市及び十七州に分かれ、それぞれに畜産課がある。畜産課長は、市長又は州知事の隷下にあるが、専門業務については、畜産局長の指示を受け、畜産課長は、常時屠場の監督、食肉の検査を行い、又一般家畜の診療所を開設している。牛、豚、鶏等の繁殖を行っているところもある。管内の家畜頭数、家畜伝染病の状況については、下部組織の報告を纏めて、定期的に畜産局長に報告する。ブノンペン市、コンボンチャム州等の畜産課

長は、家畜の輸出入検疫事務を実施する。

州の下部機構である郡には、郡長の配下であつて、州畜産課長の命に従う畜産係員が配置されている。畜産係員は、家畜伝染病の発見及び応急対策、その後の監視、家畜の識別、簡易屠場の監督、家畜頭数の調査報告などの任に当る。

以上は、国の機構であつて、職員はすべて国の職員である。畜産関係職員の職階は、上級獣医官 (Inspecteur Vétérinaire)、下級獣医官 (Contrôleur de l'Élevage et des Epizooties)、予防注射師 (Vaccinateur) 及び家畜鑑別士 (Identificateur) に分かれる。上級獣医官は、大学卒業者の中から任用される。カンボジア国には獣医畜産関係の大学はないので、現在の任用者は畜産局部内に三名しかいない。フランス又はハノイに留学して、その資格を得たものである。畜産局長、同次長、プノンペン市畜産課長が、これに該当する。その他の畜産局幹部及び各州畜産課長は、大部分下級獣医官である。これは、主としてプノンペン市にある国立農畜蚕学校を卒業した者である。この学校の程度は、おおよそわが国の専門学校と同じである。予防注射師になるには、中学卒位の学歴の者が、半年の特殊教育を受ける必要がある。家畜鑑別士は、特別の学歴技能を要しない。

二 家 畜

カンボジアには、家畜は多い。(第一表参照)無理に増やそうとか、改良しようとか企だてた結果というより、自然に、農民の生活に当然伴われるものとして、現在の姿を呈しているような感じがする。

第一表 家畜頭数表(単位千頭)

		年 次
水 牛	九二二	一九五五
馬	二九七	
豚	三三七	
鶏	一、六二四	
あひる	?	
めん羊	?	
山羊	?	
山 象	?	
		一九六〇
水 牛	一、四四七	
馬	四四六	
豚	六一四	
鶏	二、一五九	
あひる	五七七	
めん羊	〇・四	
山羊	〇・七	
山 象	〇・七	

イ、牛

牛は、農村の到るところで見られる。大部分は、黄牛と称する、黄褐色の小型の牛であるが、黒色、黒褐色、赤褐色、灰白色のものも珍らしくない。印度から入ったゼブ牛の系統と思われるものが多いが、中には五〇〇斤を超えるものもある。体高は、一米二五—一米四〇程度であろう。飼養形態は通常放牧であるため、舎飼の施設に乏しく、柵囲い程度のもが多い。農家は普通三米位の高床なので、床下に柵をめぐらしているものもある。全放牧の例は少なく、大抵夜間は家の近くに収納する。

雨季には雑草も繁茂するから、畦畔なり、路傍なり、原野なりで充分採食することができるが、乾季になると、これらは枯れてしまい、水田の稲株に頼ることが大きくなる。稲は茎を三〇—四〇程残して、穂に近いところから刈り取るので、水田跡には藁が生えている光景が見られ、これが貴重な飼料となる。濃厚飼料を与えることは稀である。

雄牛の去勢は勵行されているが、技術が良くないため、完全に実施されず、依然として繁殖能力を持っているものも珍らしくない。こういうものが雌牛と共に生活しているから、それらの子孫が

生れることは当然である。又、種畜に対する規制がないから、種雄牛の数は豊富であり、質も必ずしも良くない。交配は、放牧中に自然に行われる。種雄牛の選定には、一定の方針はないようである。牛の使役は、普通二頭一組で行われる。田畑の耕起、碎土あるいは農作物その他の物資の運搬等が主な用途で、一般の農家では、使役量はそんなに多くはない。使役を目的とする牛のほかに、繁殖専用あるいは財産保持の一形態として飼養されているものもあるようである。一戸で数十頭を持つものもあるが、数頭を飼う農家が最も多い。

口、水 牛

水牛は、牛と同じように、全国的に農村で飼われているが、特に東南部で牛に対する頭数の割合が多い。その理由は明らかでないが、水浴を必要とする習性上、河川沼沢の附近に多く飼われる。

牛に比べて体が大きく、従って力量も勝る。但し、歩き方は遅い。体高は一米四〇―一米五五位、体重は、四〇〇―五五〇程度である。牛に比べて体幅に富む。前方に彎曲して伸びた大きな角を持つ。毛色は、大部分が灰黒色であるが、稀に赤白色のものがある。性質は温順で、粗食に堪えるが、憶病であり、警戒心が強い。警戒するときは、頭を高くあげて奇声を発する。時として狂奔することがあるが、普通は幼女や少年が背に跨って多数の水牛の群を誘導することができる。

使役は、牛と同様に、二頭を一組として行われる。作業内容も同様である。能力は牛に優るが、時々水浴を必要とするので、水の不便なところでは飼うことができない。使役を必要としない時の飼養管理は、牛の場合と同様である。山間地帯では、単なる財産保持の手段として、多数半野生状態で飼われるものがあるという。

ハ、馬

馬は、体高一米二〇―三〇程度の小型のもので、わが国の北海道和種に比べると、やや貴相を呈し、肢が長い感じである。毛色は鹿毛、栗毛が多く、これに白斑を持つものもある。大部分は地方小都市で客馬車や荷馬車に使われる。農耕用には用いられないようである。軍隊等で乗馬として用いているものもある。ブノンペン市では、一九六〇年に市内の馬車運行を禁止し、又、競馬の開催も仏教団体の抗議に遇って中止したなど、馬の利用面は逐次狭められてきた。

二、豚

豚は、国内にひろく飼われている。種類は海南島系のものである。小型で、黒色で、顔が長く、背は凹み、腹は垂れている。下腹部に白斑のあるものが多い。ところによっては、フランスから輸入した豚の血液を混ぜたものがある。これらは、幾分体が大きく、黄色がかった毛や白色毛の斑

点を持つものがある。耳の大きなものもある。体重は、六〇—一〇〇斤であらう。豚の飼養形態は、場所によって繁殖を主とするものと、育成を主とするものとに分かれる。両方の混合形もある。豚舎の構造は、種々雑多で、屋根、板壁、床板などのあるものから、農家の床下に木柵で囲ったものまで、各種の段階があり、中には、豚の胴又は肢を網で縛っただけで、豚舎と称すべきものを欠くものもある。

飼料としては、粥、碎米、糠を主体として、これにバナナの茎を細かく刻んで搗いたものを混ぜる場合が多い。雑草、小魚、玉蜀黍などを適宜混ぜることもある。給与量は一般に不足なようで、そのためか、子豚の発育状態は悪い。

交配する場合には、種雄豚のところへ雌をつれてゆくか、あるいは逆に、種雄を借りてきて雌と同居させる。子豚は、雄雌共、繁殖用にするものを除き、生後数ヵ月で去勢される。去勢技術者は大抵各部落にいる。繁殖用に残す際の選定方針は、発育の良いものを重視するようである。繁殖専門地域の子豚は、生後二ヵ月位で、発育の良いものから、仲買人の手によって育成地へ移される。育成地での飼養方法も、繁殖豚の場合と変らない。八ヵ月から十ヵ月位して、五〇—七〇斤位の大きさになった豚は、屠場へ送られる。

戦後、日本又は豪州から輸入したヨークシャー種又は、パークシャー種の雑種も見られるが、頭数はまだ極めて少ない。これらは、在来種に比べて発育が早く、体量も勝れているので期待されているが、在来種と同様の飼養管理で、これに勝る成績を挙げることができかどうかは、まだわからない。

ホ、鶏

鶏は、農家に限らず、ひろく飼われている。種類は、專業養鶏場を除いては、殆ど改良されていないもので、チャボに類する小型のものから、シャモに類する大型のものまで多種多様である。

鶏舎というものは、ないのが普通である。昼間は家の周辺を餌を求めて歩き廻り、日暮になると床下へ来て眠るという状況である。従って産卵の場所も一定せず、家人も別にこれを探し求めるわけでもない。産卵数は一カ年に三〇個程度と推算されるから、探し求めたところで見つからないことが多いであろう。産んだ卵は、母鶏によって孵化される場合が多く、家人の食用に供され、又は売却されるものは少ない。餌としては、残飯、粗碎米等を撒いてやる程度である。

都市の近郊には、專業養鶏場があつて、市場に食卵を供給しているが、こういうところでは、品種は白色レグホーンが大部分を占め、横斑ブリマスロック、ロードアイランドレッド等がこれにつ

ぐ。日本から輸入したものもあるが、豪州からの輸入が、近来増えているようである。豪州系のも
は、卵が大きいという噂がある。養鶏場の規模は、大は一万羽から、小は百羽位までである。飼料
は、碎米、糠、魚粉、落花生粕、玉蜀黍、緑豆等を与えている。産卵率は、五〇―六〇%位である。
一九六二年春、突如としてブノンベン郊外の養鶏場がニューカッスル病に襲われ、多大の損失を
蒙った、その前年の大洪水によって打撃を蒙った後だけに、業者の精神的動揺は甚だしかったこと
と思うが、それぞれ豪州から雛を補充して、従前通りの経営を行うことになっている。

へ、あひる

あひるは、鶏ほど普遍的ではないが、数羽又は数十羽程度ずつ農家に飼われ、あるいは数百、数
千の大群で水辺に飼われる。種類は雑多で、白色のもの、褐色のもの、黒色のもの、頭の赤いもの
など色とりどりである。

飼養管理については鶏の場合と大差ない。産卵率は、鶏に比べていくらか良く、又、卵が食用に
供され、又は売却されることも鶏の場合よりは多いようである。大群を飼う場合には、水辺に小屋
を造り、管理人がこれに起居して、飼料も計画的に給与する。

59 畜

ト、めん羊

、氣候の關係上、毛用種は適しないので飼われない。ゴム園、回教徒等の間に自家用として肉用種が少数飼われるに過ぎない。フランスから輸入した系統が残っているとのことである。

チ、山 羊

回教徒が少数飼育している。在來種のほかに、ヌビアン、アルパイン等の雜種と思われるものがある。

リ、象

象は、主として山間の野草の豊富な地域で飼われる。性質温順で力量に富むので、木材の搬出などに用いられるが、飼料として大量の野草を要するので、飼育は地域的に限られる。又、機械化の進展に伴い、頭数も漸減するものと思われる。

三 畜 産 物

イ、食 肉

食肉としては、豚肉が最も多く消費され、牛肉、水牛肉がこれにつぐ。鶏肉、あひる肉も相当消費される。その数量は、全体としてはわからないが、主要都市での屠殺頭数は、第二表の通りであ

る。この表で、家畜頭数に比べて屠殺数が少ない感じがするが、これは、(一) 雖は屠殺を禁止されている、(二) 輸出されるものがある、(第三表参照) (三) これは、主要都市一五カ所における屠殺数であって、この外に地方簡易屠場で殺されるものがある(その数はわからない)、というような関係から、そうなるのである。

第二表 主要屠場における屠殺数(単位千頭)

年次	牛	豚
一九五〇	三〇・〇	二二九・〇
一九五五	三八・〇	三〇五・〇
一九六〇	四〇・九	三三三・〇

第三表 家畜輸出頭数表(単位頭・羽)

年次	水牛	豚	家禽
一九五〇	五〇、八三三	八、五六五	八〇二、〇〇〇
一九五五	三五〇	三、五〇〇	三〇〇、〇〇〇
一九六〇	四五八	一〇、七七三	五〇、六四七

カンボジア人は、大部分仏教徒であり、仏教徒は殺生を禁じられているが、肉となったものを食うことは禁じられていない。屠殺業務は、仏教徒以外の者によって行われる。

豚は、五〇―七〇斤の大きさになったとき、牛と水牛は、役用としての限界に達したとき、つまり七―八歳になったとき、仲買人の手によって屠場へ送られる。牛と水牛について、若令のものと雌とは、屠殺することを許されない。屠場は、州の管理、監督を受けるものと、町村長の監督に任せられている簡易屠場とがある。

食肉は、市町村の中心にある食品市場で販売されるのが普通であるが、田舎では自転車で行商している風景も見られる。生肉で売られるのが大部分で、加工品は少ないが、ハム、ソーセージの外に、各種の肉を乾燥したものがある。豚肉と牛肉の価格は、小売で一斤三〇―四〇リエル（一五〇―二〇〇円）である。肥育的飼養法をしてないから、味は良くない。鶏やあひるの肉も市場で売られるが、生きたままでも売られる。価格は共に一羽二五―四〇リエル（一二五―二〇〇円）位である。

口、食 卵

鶏卵とあひるの卵が、市場で売られる。大きさは、鶏卵で四〇―六〇瓦、あひるの卵は、これよ

産

り幾分大きい。消費量は、数量的には不明であるが、鶏卵とあひるの卵と大体同量位消費されると思われる。鶏卵は一個一・二・五リエル（一〇一・二・五円）、あひるの卵は一・八一二リエル（九一〇円）で売られる。

鶏卵の中には、ある程度雛が發育を開始しているものを売っているが、これを平気で食用に供する。

ハ、乳

牛、水牛、山羊等の乳は、皆無ではないが、經濟的には無視するのが適當であろう。乳製品は、すべて輸入に頼っている。

二、その他

皮革は、第四表に見るように、相当多量を輸出している。

、厩肥を利用する風習がなかったのであるが、近年政府の奨励に応じて、豚、牛、水牛等の厩肥の生産、利用が各地で増加する傾向にある。

四 家畜、畜産物の輸出入

イ、輸出

畜産関係の輸出状況は第四表の通りで、生豚が最も多い。生水牛がこれにつき、皮革、鳥の皮、羽、生牛の順である。輸出先は、ホンコンが最も多く、シンガポール、南ウイエットナムがこれにつぐ。目下のところ、積出しはブノンペン港で行われるが、シハヌクヴィル港の整備が完了してここから積出することができるようになれば、ある程度輸出は促進されるであろう。

第四表 家畜、畜産物輸出状況（一九六一）

分 類	品 目	価 格 (千リエル)
生 畜	水 牛	一、四〇七
	豚 牛	三四、一八五
そ の 他	計	一一五、五〇一
		六八六
		一五一、七七九

口、輸 入

家畜、家禽の改良のため、米国援助によって、種牛、種豚、種鶏、種卵等が近年輸入されたが、畜産物の輸入状況は、第五表の通りで、煉乳が第一位、粉乳が第二位を占めている。原産地は、米
 国が断然多く、オランダ、ソ連、フランスがこれにつぐ。

第五表 畜産物輸入状況（一九六一）

区 分		重 量 (トン)	金 額 (リエル)
生 乳	煉 乳	一三三	二、〇八八
三、二四九	粉 乳	一三九	五九、七六五
			八、一二三

皮 革	肉・魚製品	その他の動物 生 産 物	合 計
五、九五〇	ソーセージ類	鳥の皮、羽等 そ の 他	一六三、三五〇
一、四四〇		計	四、一八一
二、三一七			
一、八六四			

五 家 畜 衛 生

合 計	皮 革	食 肉、 臓 物	乳、卵、 蜂 蜜 製 品		
			計	チー ーズ その他	バ ター
三、六三三	七	四	三、六一二	二	六七
七六、九六六	五九二	四六〇	七五、九一四	五〇	三、五二〇

畜産局創設以来の家畜伝染病との戦いの結果、伝染病は減少したが、まだ絶滅とまではいかない。第六表に見られる通り、牛疫、野獣牛疫、炭疽、気腫疽、口蹄疫等が年々発生している。豚、鶏等については、統計がないが、牛疫、口蹄、豚疫コレラ、ニューカッスル等が発生していることは確かである。

第六表 家畜伝染病罹病頭数表(牛、水牛)

口疫蹄	氣疽腫	炭疽	野牛		年次
			水牛	水牛	
水牛 二、三八九	水牛 一、二八	水牛 〇	水牛 四八三	水牛 八八八	一九五六
二四、六八一 二、三八九	二六 一、二八	六 〇	三九四 一七九	八一六 三九六	一九六一
九、一五五	五〇	十一		四五九 二八六	

政府機関のほかに、パストゥール研究所及びF A O派遣専門家が、防疫について大いに貢献している。パストゥール研究所では、各種の血清、ワクチンを製造し、又、病性鑑定を行っている。F A O専門家は、防疫計画の樹立及び防疫の実務に協力している。

予防注射は、部分的にはあるが、牛疫、野獣牛疫、炭疽、気腫疽（以上牛、水牛）、豚コレラ、伝染性腸肺炎（以上豚）、家禽コレラ、ニューカッスル病、鶏痘（以上鶏）、狂犬病について行われている。

寄生虫病については、実態が明らかでない。一般に栄養障害による損耗がかなりあるのではないかと思われる。

附 言

養豚については、更に発展することが期待される。現在は生産費が低いことが非常に強味であるが、飼料給与を合理化し、肉質の良い、発育の早い品種で改良すれば、更に経営を有利にすることができるであろう。輸出するにしても、枝肉でシハヌクヴィル港から積出することが可能になれば、輸送費も一層低減するものと思われる。

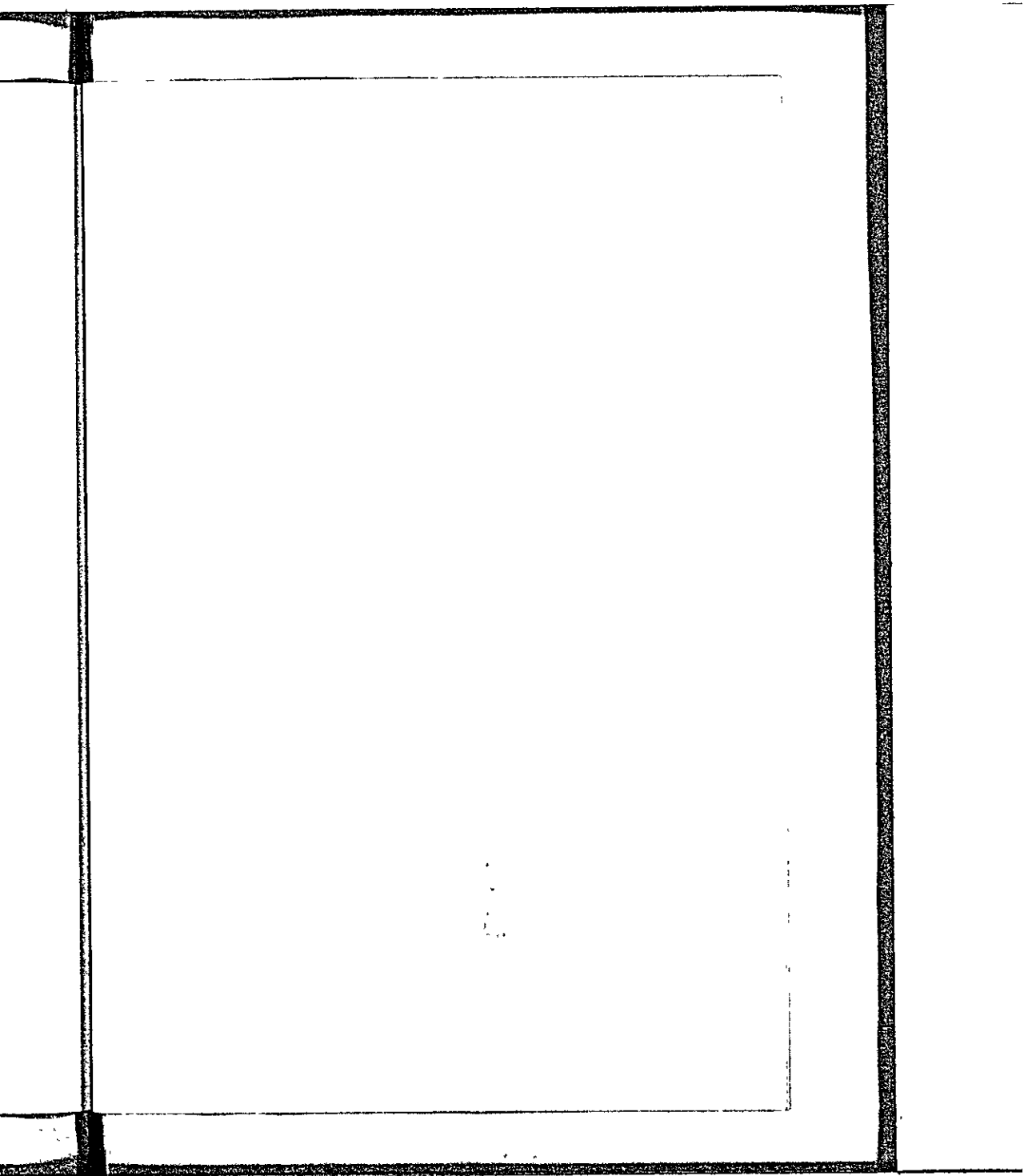
カンボジア人の長い間の熱望である乳用牛の飼育は、まだ条件が熟しているとは思われない。まず第一に、牧草の栽培により常時良質な粗飼料が準備されていなければならず、そのためには乾季

の灌漑の普及も必要であらう。次に、暑気の中でもある程度の泌乳量を保つような品種の牛を探すことが必要である。消費増大についての見通しも立てられなければならない。結局は、輸入によるよりも高くない経費で消費者の手に渡すことができるかどうか、慎重な検討を要する。目下のところ、検討するに十分な資料もないので、まず小規模な試験を始めながら、必要な調査を行うべきであらう。

カンボジアの医療事情

野

津
野
（厚生省医務局医事課
衛生技術官）



一 保健衛生対策の基本方針

世界の他の諸国と同様に、保健衛生の向上が、国の発展の基礎となる重要事項の一つであるという、基本方針の下に、諸々の保健衛生対策が樹立されており、独立以来の立ちおくれを、回復すべく努力している状況がありありと見受けられる。

我々の想像の下では、熱帯地方にある、開発途上にある国の一つとしての悪疫流行の地からは既に脱却しつつあり、より健康な国民を作るために努力している。

保健省の考え方として、治療医学の進歩については国民に、最新の医療を受けさせるために、重視することは、勿論であるが、更に進んで、予防医学の強調が行なわれ、全ての医療は、予防に通じているという考え方で、保健衛生対策が行われ、且つ疾病の減少を計ろうとしている。

特に重点的な施策としては、乳幼児、妊産婦の罹患及び死亡の減少を目的とした、母子衛生対策が、伝染病対策、環境衛生対策とともに、取り上げられている。

この考え方は前記の予防医学重点施策と同様、将来の国民の健康を対象とした、長い間の対策と

いうことができよう。

勿論、後進性のある疾患、例えば、伝染性疾患に対する施策も行われ、先ず、マラリアにおいて成功の段階に達し、次いで、らい、熱帯フランベジア(ピアン)等に対する防疫活動が行われている。

二 疾病の状況

マラリア防疫対策が実をみのり、現在は相当に減少し、その殆どが陳旧性となり、後遺症を残しているのみであるとの医師の言であり、実際少くなっているようである。然し、防疫対策の一環として行っている集団検血の結果では、まだわずかに、プラスモジウムの保有者を見出しているようである。マラリアが多いとされているジャングル地帯の検査の結果では、約六―七%が検血者中陽性になっていたようである。然しこれも一九六〇年のことであつたので、蚊の撲滅対策が行われているので現在はさらに減少しているものと考えられる。

熱帯フランベジア(ピアン)も重要な疾病の一つとなっているが、これも、治療を行うことにより次第に減少しつつあり、且つ、地域的に限局しつつある状態である。一九六〇年当時「UNICE

F」より派遣された医師が調査と、治療を行っていたので、極めて少くなっていると思われる。

何れの医師に聞いても、問題になっている疾病、即ち重要疾患は、性病、ビアン、小児下痢症、結核、寄生虫、等をあげており、精神病院では、半数近く、梅毒性精神病であるとのことであった。

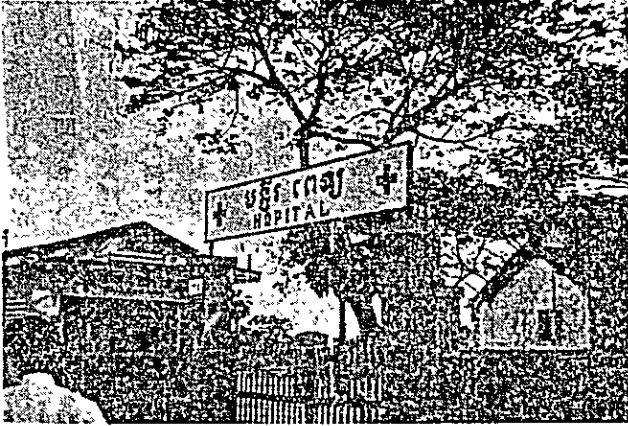
結核対策は、まだ緒についたばかりで充分とは云えず、患者数も相当に多いらしいが、検査の普及が行われていないために、発見されないのが相当あるように見受けられた。それにしても、一五〇床の病院で、二〇床あまりが、結核患者によって占められていた。抗結核剤による治療も、都市では行われているようであったが、計画的な治療は少いらしく、病院での検査の結果耐性菌が相当に見られる場合が多く、これ等の患者は、病院に来る前に自ら売薬による治療を行うか、断続的に、医師にかかり治療を受ける等の病歴を持つているとのことであった。

寄生虫疾患は、その生活様式から見て、多いことが推測され、環境衛生対策に重点をおいている理由の一つであると考えられる。

全国的な統計が入手できなかったので、北部のある州における病院の患者統計により、病院において、診療を受けた疾病分類について主な疾病の罹病状況をみると、次の通りとなっている。

なお、この病院は年間七四、一五五人が初診を受けており、一七六床の病床を有する州の中央病

州中央病院



院である。

一、地方病的疾患

(イ) マラリア 熱 性

三三八

悪液質性

一一四

(ロ) アメーバ赤痢

六四一

(ハ) 腸管寄生虫

六、一一二

(ニ) 脚気

六、五五六

(ホ) ビアン(熱帯フランベジア)

一、三九二

(ヘ) Ulcere pharyngémiqne

五〇九

二、伝染性疾患

(イ) 肺炎

三五七

(ロ) 感冒

六九五

(ハ) 百日咳

一五九

77 カンボジアの医療事情

	(二)	麻疹	一一〇
	(四)	流行性耳下腺炎	三五
	(ハ)	水痘	四八
	(ト)	トラコーマ	一、八一〇
	(ケ)	狂水病	五一
	三、社会的疾患		
	(イ)	肺結核	四〇〇
	(ロ)	性病	梅毒 一、七七〇
		淋病 二、四六七	
		軟性下疳 八八	
	(ハ)	レプラ	一一
	(ニ)	瘰	四
	(ホ)	アルコール中毒	一七
四、その他の主なもの			

(イ)	呼吸器疾患	一三、〇四七
(ロ)	循環器疾患	四、八五七
(ハ)	消化器疾患	七、二三二
(ニ)	泌尿器疾患	四五六
(ホ)	神経系疾患	三、四〇五
(ヘ)	その他	二、九七八

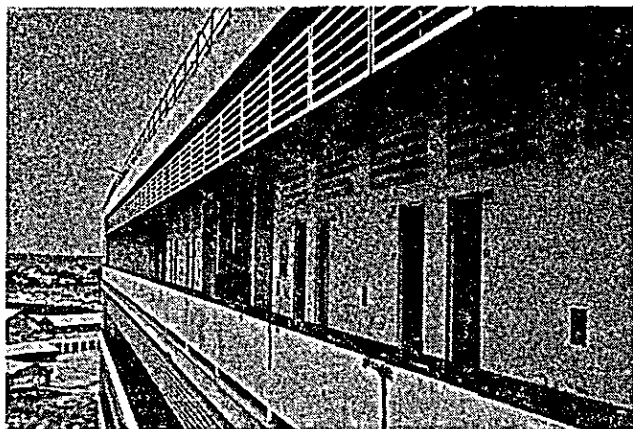
となっている（一九五九年統計）。

これは、前記の通り病院の診断を受けたものだけであるので受診しないものについては、分らないが、その地方における疾病の様相は推測し得ると考える。

三 医療機関の状況

これら疾病の診断治療を行う医療機関は、
 公立施設は、一般病院が一六施設、二二六七床で、一三州一県と首府プノンペン、に分かれてお

ソ連病院（病棟）



かれ、各州に一つずつの病院があり、プノンペンには三カ所の病院がある、その他カンダル県には一六床の有床診療所がある。

特殊病院として、一〇〇〇床の精神病院一カ所、九〇〇床のらい療養所一カ所、がある。

診療所は、前記有床診療所を除き、八カ所ある。特殊な形態の診療所として一二四カ所の看護所がある。

看護所には、一般に、看護婦（人）が駐在し、その州の病院と密接な連携を保ちつつ、医師の不足を補なうために、診療の第一線機関として重要な役目になっている。

その他、レブラ診療センター、保健所が各一カ所ある。また、他に同病院がある。

私的医療機関として、二〇〇床の中華病院、同じく二〇〇床のフランス病院がブノンペンにある他、同じくブノンペンに五〇〇床のソビエト病院が一九六一年に開設され、その四階建の近代的建设の病院は、他の殆どの病院がバビロン形式を取っている中で、偉容をほこっている。その他、四病院合計五〇三床が地方にあり、四診療所、二二助産所、四施設所、二〇の看護所がある。これらは所謂個人立のもの、他国の援助関係のもの、及び宗教関係のものである。

公立関係医療施設の利用状況は一九五九年には、一一九万六千の実患者が外来を訪問し、延件数は、三〇七万五千に及んでいる。

又入院患者は、同年に繰越二千五百、新入院四万八千五百、死亡千六百四二、延日数、一一八万一千になっている。

特に目を引くのは、僧侶に対する病棟は別棟になっていることであり、仏教国としての特殊性であると考えられる。

医療費は、公立施設において、学生、官吏は無料であり、一般人も貧しい人は無料とのことである。有料無料の区別の方法も、我が国のように、収入がいくらまでという厳密な区別がある訳でなく、むしろ、ある階級（貧しくないと思われている人達）は、自ら進んで金を出すか、あるいは、

私的医療機関に受診する傾向があるようである。又、各公立医療機関は、何れも、個室の入院設備を有し、ここに入院する場合は、有料ということになっている。

設備は、プノンペンにある病院は何れもよく（公立、私立を問わず）、我国の一流病院なみの設備を有するが、地方に行くと、X線装置などの普及率は低いようである。

四 医療従事者

医療従事者の数は極めて少く、前記公立施設関係の従事者は、

医師	一一〇名
口腔外科医	二名
歯科医	五名
薬剤師	四名
助産婦	六〇名
看護婦又は看護人	九四四名

衛生官吏	六〇名
衛生教育官	三四名
地方産婆	二六九名

であり、これ等医療従事者の養成が極めて必要な事項となっている。

又外国から不足のおぎない及び技術指導のために、七名の医師、三名の助産婦、四名の看護婦が、コロンボ計画、U S O M等により滞在していた。国別には、英、仏、加、スイス、ベルギー等である。なおこれ等の中には、前記私立医療機関関係は含まれていない。

医師の養成機関として、王立医科大学が一九四六年に設立され、現在（一九六二年）には、医学科、公衆衛生学科、薬学科、歯学科の四つの科に分れている。

一九五九年の現員は、医学科（四年までで以後はフランスで教育）六六名、公衆衛生学科（五年課程）一六三名、薬学科、歯学科は、各学年定員一〇名で発足するようになっていた。

従って、医師は、毎年約二〇名が増え、公衆衛生医師は、現在約三〇、将来約五〇となり、歯科医師、薬剤師は各々一〇名宛増加する計画となっている。

助産婦、看護婦（人）については、助産婦、三年課程で、毎年約三〇名、看護婦（人）二年課程

で、毎年約一五〇名が養成されている。この養成には、USOM・OMSの技術援助が行なわれている。

以上のような現状にあるため、ある州の中央病院（一〇〇床、外来一日平均一〇〇〜一二〇名）のスタッフを見ると、三名の一般医、一六名の看護婦（人）一名の助産婦となっており、簡単な治療は、看護婦（人）が行っている。

又一五〇床、外来三〇〇名の病院でも、近くの軍病院の医師の応援を得ているとはいえ医師一名、助産婦二名、看護婦（人）九名で診療を行っている状態である。

従って、前述した看護所が村におかれ、看護婦（人）による診療が行われていることは、止むを得ない状況でもあり、又逆に云えば、この様にして医療の普及を行っている努力はかうべきものがある。

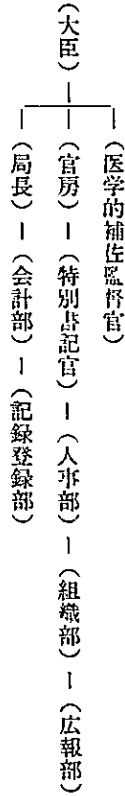
五 行政組織

各州の中央病院長が、その州の衛生部長を兼ね、州内の公立医療機関の総括を行い、且つ、保健

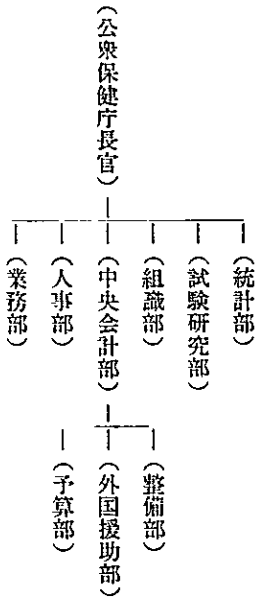
衛生上の責任を有する組織になっており、中央に保健省があり、国全体の計画を樹て、予算的に総括している。

中央政府の機構は次の通りである。

「大臣官房」



「公衆保健庁」



┌ (防疫検査部)
└ (衛生部)

┌ (病院部) ─ (医療補助者養成部)

この様な組織で行政が行われているが、専門家の不足のために、併任が多く行われており、且つ我が国のように、責任分散が行われていない為に、上級の担当官によって、重要な業務が行われているために、担当官の都合によって不在の場合が多く、事務的な仕事が進ちよくしにくいことがある。然しこの反面上級担当官のレベルは高く、担当官一存で、業務が極めて能率的にはこぶことがあることは、今後の業務に際して考慮する必要がある。

六 財政状況

開発途上にある国の一つとして、外国の援助に期待していることは、当然であり、前記医療機関も相当に援助によるものが多い。

然しながら、国としての基本政策を基礎として、保健衛生対策は勿論のこと、医療機関の整備計

画等を樹立し、その目的に向つて、外国の援助を含めて着々と進んでいるのが現状である。

マラリア対策、ピアン対策、ソビエト病院、小児病院、保健所、等々、このよい例であると考えられる。

保健衛生関係の予算は、一九五八年には、二億二五〇万リエル（一リエルは約一〇円）一九五九年には、二億二四五万リエルになっている。

国全体の才出は、一九五八年は、二六億五千万リエル、一九五九年は、三一億四千万リエル、となつているので、約七・五％が保健衛生関係の費用となつている。

一九五九年のその他の費用をみると、

教育費	七億八百万リエル
国防費	五億二千五百万リエル
公共事業費	五億二千三百万リエル
警察費	三億五百万リエル

となつてゐるので、保健衛生関係にも相当費用がさかれてゐるといつてよいと考える。

七 公衆衛生対策

予防医学を主としている国として、公衆衛生対策を重点的に行っていることは勿論であるが、二、三目にふれた点について述べてみると、

伝染病、地方病対策については、既に他の項目で述べたのでこれをはぶく。公衆衛生事業向上の根本である衛生教育については、前記医療従事者の中に衛生教育官が含まれていたことにより、如何に重点的に考えているか、知ることができるが、学童に対して映画等による集団教育を行い、これと併行して、寄生虫検査、予防接種を行っていることなど有効な方法であり、妊産婦検診、乳児検診を積極的に進めることにより、性病、結核は勿論のこと、その他母子衛生対策を進めている。

環境衛生対策として、わが国の技術によるプノンペン市の水道建設、土もりによる低地の解消など、街作りと平行して行われていることなど、意欲を感じさせた。

八 あ と が き

一九六〇年、日カ経済技術協力協定に基づく業務により、約三ヵ月滞在し、その間、見聞きしたことを中心に述べてきたが、目的が違ったため、資料等も乏しく、充分とは云えない。然し、新興国として、公衆衛生の向上を国の発展の基礎の一つとして取り上げ、人材の不足、費用の不足等にもめげず、外国よりの援助と組み合わせて、着々と、進んでいるのを目のあたりにみて、同じアジアの国として、我が国に可能な協力はおしむべきでないということをお心から考えた、ということ述べて筆をおく。

カンボジアの電気通信事情

岡
橋
道
子

昭和三十五年十月四日、カンボジア国において、初めて国際通話の取扱いが開始されたが、それに伴う交換実務指導の目的で、国際電話局より交換要員が派遣される事になり、私共三名（中川、大社、岡橋）は、任地ブノンペン（Bureau de Post et Telecommunication）内に、約六カ月間勤務してきた。

隣接のタイ、ベトナム、マラヤ等では、既に各国と国際通信網を持ち、我国とも国際通話サービスを行なっていたが、当カンボジアにおける通信施設は、周辺より立遅れた状態で、昭和三十五年の東京回線開設までは、国際通話回線を全然持たず、東南アジアの新興独立国として、輝かしい発展の途上にある国としては、政治経済形態の成長に伴う通信施設の急速な発展は目下の急務と思われる、その意味でも、今後一層の技術指導及び援助が望ましい次第である。

電話施設の現状

カンボジア国の現在の電話施設関係は、国内線としては、ブノンペン市内の電話回線約二千回線（現在千二百回線運用）收容程度で、他に主要都市間を継ぐ市外線が数本入っている。交換室はP

T工庁舎内にありすべて手動式による旧式交換台で、日中は約十六名の女子交換手が交替で働き、夜間は六時以後、二名の男子要員が交替勤務しているようだ。故障率は頻繁で、技術者不足のせいもあってか、復旧には相当な時間がかかる。街中に公衆電話は全く見当らず、一般市民はあまり電話の恩恵には浴していない。目下、自動化をはかって、新施設の工事にとりかかっているようで、これが完成の暁には、現在の状態も改善されるのではないかと思われる。

次に国際電話施設に関しては、まだ専用の交換室はなく、また交換台も設置されていない。以前会議室であったという広い部屋の片隅の机上に、無線連絡用の磁石式電話機一個と、受付案内、及び接続用の共電式電話機二個を置き、机の一隅に取付けられた三個のジャックを使用して、短いコード一本で接続をするという簡単なもので、通話課金時分の測定に必須の積算時計がなく、各自自分の腕時計と一個のストップウォッチのみで、算出しているので、通話不能時分のディスプレイカウントに苦勞する。聴話設備もなく通話状態を監視するには増幅機による他なく、話中に時分を通知したり、無線技術者と状態の打合わせをする為の割込は困難だ。これら増幅機やアナウンスメント・マシン等は、機械室の方に取付けられるのが本来かと思うが、すべて電話機の側に設置されている。

また室内には防音設備もなく、無線関係、テレビ関係の機械類が持込まれて、その試験、試動等

もこの室内で行なわれ、従って人の出入も頻繁で、雑音には常に悩まされ、接続中の話頭切断等も多く、通話に支障を来たす程の事もあった。

早急に、防音設備の施された一角と、小型でも必要な形体を備えた交換台の設置を熱望する次第だが、これは、関係上司の方々に、国際通話の特性をのみ込んでいただくことが先決問題かとも思われる。

受信所はプノンベンの西南約一二キロの地点ポシェントンに、また送信所は同じく西南約二〇キロのカンボールに新設されている。

国際回線運用状況

(上海回線)

取扱い時間は、午前八時より九時までの一時間(以下すべて現地時間)この回線は、シャヌーク殿下の中共訪問中の政府間連絡の為という事で昭和三十五年十二月十三日に開設、殿下滞在中は、午前中の一時間の他に、夕方四時から一時間再度の連絡をとり、また北京にもサーヴィスを延ばし

ていたが、帰国後も午前の連絡のみは引続き行なっている。ただし、この回線は、まだオフィシャル・サーヴィス専用で、コマニシャルには開放していない。

(香港回線)

取扱時間は、午前九時より十一時までの二時間。日曜休止。

現在通話取扱数の最も多い回線で、平均一日七、八通に達し、殆んどが華僑間の商用通話で、広東語が多く用いられている。

(東京回線)

取扱時間は午前十一時半より十二時半までの一時間。日曜休止。

当国最初に開かれた回線だが、通話数はまだ少なく、一日平均二通弱。日本商社による商用通話为主体で、一通当りの通話分数は、他回線より長くなっている。我国との貿易関係の消長に伴って増減があり、昭和三十五年暮頃には最高五通位扱った日もあり、一時間のサーヴィスでは扱い切れぬ感じだったが、最近は減っている。またP.T.T.からは多くの研修生が来日している関係上、サーヴィス・コールも相当扱っている。

(パリ回線)

取扱は午後五時より六時までの一時間。土、日曜休止。

昭和三十五年十二月十六日開通の予定で、準備万端を整えていたが、当日になって、フランス側の手違いで、何の連絡もないままに、開通延期となりその後、関係当局間の折衝が続けられた末、昭和三十六年一月十六日に漸く正式に開通した。この回線のみは、両国オペレーター間の取扱用語は、すべてフランス語で行なわれ、取扱数は東京回線とほぼ同数の一日二通弱である。土地柄フランス人の居住者は相当数にのぼるので、その家族間の通話や商用通話などである。

(中継サーヴィス)

以上の他、東京中継によって、昭和三十五年十一月二十一日に台北へ、また同十一月二十三日より米国へのサーヴィスが開始されている。取扱いは東京回線運用中で、プノンペンには現在約百家族の米人が在住しているので、市内線の自動化が実現すれば、米国向け中継通話の申込は増加することと思われる。

なお、昭和三十六年四月二十日から、東京中継でマニラにも回線をのばしたはずだが、カンボジア側では、事務手続き停滞の為か、まだ取扱いを承知せず、京城に対しても同様である。最近バンドンにも中継可能となったが、これも同様の結果ではないかと危まれる。

パリ中継では、ベルギーへも中継している。

指 導 状 況

以上の如く、通話回線は開設されたものの、運用取扱いに関しては、未経験者ばかりで、通話取扱規則なども、まだ系統立てて制定されず暗中模索の現状で、通話料精算の為の国際計算等も手がつけられていない様子で、手伝うべく申出たが、自尊心もあつてか、まだ目を通す閑がないことを理由に婉曲に断られた。

要員の養成も行なわれず、国際交換手として配属されれば、その日から何の指導も受けず実務に着く為、簡単な取扱いはすぐ覚えても、少し複雑な要素が出て来ると手におえぬ有様で、私共着任当初も、通報、取消等に関してのトラブルが香港回線ではしばしばあったので、国際通話用語としての英語の指導と共に、先ず一般的な規則をのみ込ませるべく努力した。

交換手は最初、研修生として東京へ勉強に行く事を前提として、三人が配属され、中、二名が交替で上海、香港、東京回線を受持ち、他の一名は、夕方のパリ回線に配置されていた。三人とも相

当な教育を受けた人達だが、公用語がフランス語となっている関係上、英語の能力は低く、全く初歩の段階だったが、よく努力して、数カ月の間に、相手局とのやりとりが何とか出来るまでになった。現地官庁執務時間は、午前七時より午後一時四十五分までだが、私共もそれに準じた勤務をした。三名の中一名が直接回線の指導にあたり、他の二名は、同じく手空きの二名の訓練を続けた。

東京行きまでに、何とか用語を一通り覚えさせるべく計画をたて、最初は当方より持参した英仏対訳による交換用語のテープレコーダーを使用、プリントと併せて指導したが、珍しさも手伝って早朝から自分達で進んでレコーダーを聞き、熱心に練習をしていた。発音はなかなか難しいらしく、カンボジア語的な音、フランス語的な音が混って、正確な音が出ず、相当苦心した。これも東京出發の前頃には幾分直ったようだった。

三人とも当事者よりの指示があつてか、(L'Anglais sans peine)と云う、フランスで発行された英会話の本を持っており、フランス語の訳がついていたが、内容、表現方法など、あまり適切でないかと思われた。しかし、街の本屋には殆んどフランス語のものばかり並び、英語の書籍は見かけられず、適当な指導書もないままに、この本を中心に一般英語の指導をしたが、教材、文房具等は現地で調達することは不可能で、十分準備していく必要がある。

また、急務である交換用語指導の爲には、まずP B X英語交換用語から始め、引続き、国際通話取扱上の一般的な略語、用語等を分類編集してタイプし、各自に配布、一通りの説明をつけて覚えてもらった。

またその間、二月なかば頃にラジオテクニシャン・ラジオテレグラフィスト及び、エレクトロテクニシャンを養成する爲の技術訓練学校が、P T T内に新設されたが、私共も一般教養科目としての英語授業のお手伝いをして、月曜から金曜まで毎日一時間ずつ、クラスを受持った。

生徒は殆んどが二十歳前後の青年で、女生徒五人を含み、なかには実務経験のある年配者も混っていた。六十人の生徒を各二十人ずつの三グループに分け、初等程度の英語指導をしたが、元氣な青年達で、四月末に第一コースが終るまで、なかなか面白く授業を続ける事が出来た。日本の事は大変興味をもっていて、いろいろな質問を受け、また何時かは日本に勉強に行きたいなどともいっていた。

風土及び生活文化環境

カンボジアは、地理的には、印度支那半島の東南部、北緯十度から十五度の間に位する、熱帯性気候地帯で、五月から十月にかけてが雨期で、十一月から四月までが乾期となっているが、気温は冬期の僅かな期間を除いて、殆ど連日三十度を越え、三月、四月の最高の季節には、四十度近い日もあるが、湿度は低く、日本で考える程苦しくはない。汗は流れるよりも乾く方が早いようで、坐っているとその下だけが濡れてしまう事がよくあった。日中の外出は殆んど不可能で、自動車に乗っても、まるでオブンに入れられたように、焼かれているという感じがする。このような気候のせいで、日中一時から三時頃までは、オフィスはお休み、店も殆んど閉めてしまつて、各自午睡をとるのが習慣となつている。

東部海岸寄りと、西北部の僅かな山岳地帯を除いて、国土の大部分が平地で、その大部分が原野のまま放置されている。産業的には、遠くチベント・雲南の高原地帯の水を集めラオスをぬけて南下しているメコンの大河と、東北部平原の中に大きく拡がっているトンレサップ湖によって潤された農業国で、面積十七万五〇〇平方キロ、人口約四百十万といわれ、人口構成は、混血をも含むクメール系カンボジア人が八七%、他に二十万を越える華僑と、一部ベトナム系、原住インドネシア族等から成つている。商業は殆どが華僑の手に、又漁業はベトナム系の手中に握られ、大部分の

カンボジア人は農業に従事、米・ゴム等を主産物としている。一部インテリ階級が官公職に就いている他、ブノンペン等の都市では、シクロ引き、掃除夫等の肉体労働者や、外人居留者家庭の使用人等になっている者もある。工業は極く一部の家内工業以外には見るべきものもないが、最近は小工業の発達を企図しているということだし、各外国援助による工場なども出来てきた。

仏教を国教とするこの国民は、近隣の諸民族と比べても、特に従順温和な性格で、殺伐な事件は日常殆ど起こらない。また保守的で忍耐力に富み、現在この地域における最も平和な新興国家として、シャヌーク殿下を中心に立派な纏まりを見せている。先年国王が亡くなられてからは王妃即ち殿下の母君の女王が帝位に就かれ、殿下は元首として政治上の実権を握っておられ、各家庭には殿下の写真が必ず掲げられて、国民の与望を一身に担っておられる。

森林、畜産等の豊富な資源を抱えながらまだ開発不十分で、積極的に諸外国よりの経済援助導入を計り、繁栄への道を開拓すべく企んでいるようだ。また、各国よりの援助競争はなかなか活発で、殊にソ連、中共の援助が目立ち、日本も農業、酪農業方面での地味な援助に努力している。

ブノンペン等、都市の街並はよく整備され、道路は広く、緑地帯も大きくとられて、常夏の国らしい鮮やかな色彩の花が咲きほこり、緑の街路樹と共に美しく街を色どっている。市街の家屋は石造、

モルタル等の不燃性材質で小ぎれいに並び、内部はタイル張り、クリーム色の壁が多いようだ。一部有産階級はなかなか豪華な生活をしているようだが、市街地の住民は、男は開衿シャツとスボン、たまにはサロンを捲く程度、また女子は短いブラウスにサンポットと称する長いスカートをはき、西洋風な服装はしない。普段は大てい黒い絹のサンポットを着け、晴着としては美しい色のサンポットに変えている。またこの辺りの華僑も同様に黒い絹のだぶだぶしたズボン様のものを着けている。

しかし、シクロ引き、労働者などは戸外で夜を明かす者も多く、早朝散歩に行くと、街路樹の下や、緑地帯に、着のみ着のまま、寝ている人達を沢山見かけた。また、市街地を少し離れると、高い柱の上に椰子の葉のようなものでとり囲んだだけの、一間きりの住居が多く、付近の水溜りで水浴びをしたりしている。服装も布切を身に纏っている程度で中産階級は他の東南アジア諸国同様殆んどなく、一部上層階級を除いて、民度はまだまだ低いようだ。

まだ宗教的な影響で、野牛、野犬が非常に多く、市内地でも野犬が多数うろつき、殆んどが皮膚病を持っている。

教育は、市街地以外はまだ普及率が低く、高等教育は、化学・数学等もすべてフランス語で講義

がなされ最高教育を希望する者は大いフランスへ留学しているようで、官庁の上司は殆んどフランス掃りだ。最近日本への留学希望者が増えているということだった。

そのような関係で、驚かされたのは、生徒達から、日本では何語で講義をするのか、公用語には何語を使用するののかという質問が、しばしば出たことだった。数学でも物理化学でも地理でも、皆日本語で講義をするし、教科書も日本語だというと、不思議そうな、感心したような顔をしていた。

長期間にわたる植民地政策の影響で、現在では日用雑貨のすべてを輸入品にまたねばならないこの国も、かつては教世紀にわたって、インドシナ半島に君臨し、高度のアンコール文化を築いていたクメール族の後裔を主軸とし、現在また良い指導者を得て、その再興、発展には期待がかけられる。

アンコールワット見聞

さて、カンボジアを語って忘れ得ないのは、九世紀より一五世紀にわたって築かれた、巨大なクメール文化の遺産、アンコールの遺跡だが首都プノンペンからは、北方約三五〇キロのシェムリエップ地方の広大な地域に散在し殊にアンコールワット、アンコールトムの名は、当時のクメール民

族の造形的才能の展開として、世界の文化史上にも高く評価されている。

一九世紀末、一仏人により発見されて以来、仏当局の手で発掘修理が続けられ、往時の姿が再現したもので、既に復元の完成された、アンコールワット、バイヨンその他に、未発掘・未復元の遺跡が多数点在し、崩れかけた石組の上に聳える見事な大木は、訪れる人々を眩目させている。神王信仰のヒンズー教の影響が大きく、後期に至って次第に仏教の影響が現われている。代表的な建築アンコールワットは、いわゆる、寺院山形式をとり、階段状にピラミッド式に高く、山のように構築された巨大なもので、堀をめぐる周囲は、一周約五、六キロに及び、神王信仰による噴墓寺院として、東南アジア最大の建造物といわれ、三層の回廊を回らし、各回廊には図案模様やアプサラ像（天女）の装飾を施し、第一層の回廊にはヒンズー教の神話が浮彫にされて、実に見事なものである。第三層には幾分仏教の影響が入って来ているようだ。

徳川初期には日本人でこの地を訪れる者もあったようで、今もその名と記念の文字が壁に墨書されて残っている。

また、バイオンはアンコール期最後の作といわれ、仏教寺院だが、構成はアンコールワットと似て、回廊にはやはり過剰なまでの浮彫のフリーズが見られ、完教的主題の他、当時の日常生活や職

闕の様などが窺い知られる。人面を現わす高塔が林立して奇觀を呈し、アンコールの微笑といわれる不思議なほほえみをたたえて、訪れる人々を静かに眺めている。

発掘・整備は現在もお、着々と続けられ、地域内には三五キロに及ぶ回遊道路が完成し、ジャングルも保存されて、世界の観光地として偉容を誇るこの遺跡は、バンコック、プノンペンからは空路訪れる事も出来、この期以外に見るべき文化的遺産の乏しいカンボジア国民にとっては、最大の誇りとしているもので、保存・観光の為には大変力を入れていようだ。

これ程の大遺跡が、全くの廢墟となつて、數世紀の間忘れ去られていた事は、日本等では考え及ばぬ不思議な現象だが、人口密度の少ない、こうした地方では、捨てられた街に住みつく人もなく、語り伝え、書き伝えられる事も殆んどなく、加えて樹木繁茂の驚くばかり早い速度に、人の目から全く隠されていたものと思われる。その最盛期には繁榮を誇ったクメール王朝も、一五世紀に入り、近隣民族の侵入と、經濟狀勢の悪化により、アンコールをすてて南下する事になり、王朝の衰微と共に廢墟となつた王城・寺院は、ジャングルの奥深く埋れ、神秘のベールに包まれ眠っていたものようだ。プノンペンから程近いウードンですら、丘の上に聳える王家の噴臺の塔によって、それと知られるのみで、百年前には、首都として繁榮していたという面影は全く見当らない。

深く青く拡がる熱帯の空と、亭々と生い茂るジャングルの中に突如として姿を現わす巨大な灰色の石の山は訪れる人々を秘境に誘い込み、人気のない広大な寺院の廢墟の中で、薄暗い天井を飛び交う蝙蝠の臭気を嗅ぎ、周囲から押寄せて来るような遠い昔日の物語り面に囲まれていると、日本の古い時代の寺院で感じられる和ぎと人懐しさは全く感じられず、人の世のはかなさ、空しさが、ひしひしと身に沁みて、虚無的な恐怖感に襲われたのは、私だけの感傷であつたかも知れない。

現地生活の体験と感想

最後に私共自身の現地生活に関しては、日本女性の南方生活体験者が少ない点から、各方面より、種々の御心配、御配慮をいただいた為、日常生活には、さして不自由することなく、また健康を害する事もなく、無事に任務を終える事が出来た事を感じている。宿舎としてはホテル・マールリスというアパート形式の一室を借り、当地在住の先輩日本人諸氏の例に従って、支那人の女中を共同で傭い、しばらく日本式中華式の我流料理を数え込み、自炊生活をした。肉類などは食用として特別な飼育をしない為か、非常に固く、生鮮野菜類も入手困難で、これが最大の悩みだったが、果物

はマンゴー、パイナップル等、熱帯産の美味しいものが豊富で、味覚を楽ませることが出来た。

レストラン等の食事も、広東料理が主体で、フランス料理が幾分取入れられている程度だが、味の点、盛り付けの美しさの点では、日本の飲食店に及ばない。

市内の足としては、シクロがあるのみで、鉄道はブノンペンからバンコックに続く線路が一本、その他の都市とは、バスで連絡し、荷物と人を満載して走っている。私共外国人居住者は殆んど自動車に頼る他なくラッシュアワーの苦痛を除けば、気軽にどこにでも出かけられる日本の便利さを痛感した次第だ。

カンボジアは元来、対日感情の良好なところだが、その他の南方地域も、政治的には別として、一般住民の我々に対する態度は大変親しみ深いもので、どこへ行っても、すぐニッポン、ニッポンと喋って寄って来た。言葉は解さなくても、悪感情はもっていない様子はよく分り、にこにこ何か話しかけながら近付いて来られると、本当にこの人達の手を引き、共に進んで行くのは、日本人としての使命のように感じられ、利害を越えた、大乗的な立場からの今後の日本の協力援助を希望するものである。

カンボジアの印象

後 藤 寛

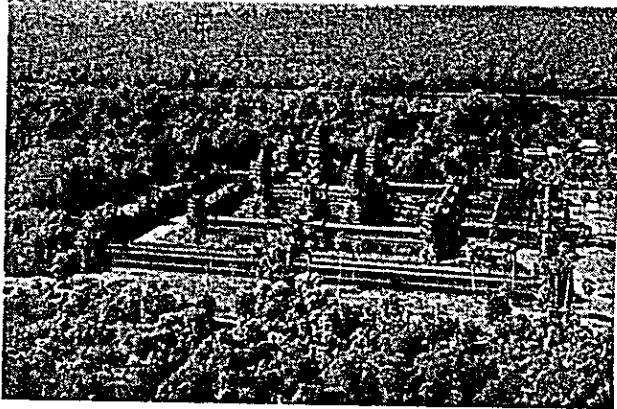
(農 林 省 大 臣 官 房 総 務 課
国 際 協 力 課 一 班)

一 カンボジアの主要都市

首都プノンペン市はメコン川と、その支流トンレサップの合流点に発達した街で、フランス風な綺麗な町であります。人口は現在五十万以上と云われ、人口の都市集中化は此処でも見られ、年々急速に増加しています。現在市は人口の急速なる増加に対応して、新市街建設のため、市の西方ポチントン飛行場（此の国唯一の国際空港）に向つて、急速に拡張され、官庁やアパート等近代的な高層建築物が着々と建設され、亦旧市街に於ては、貧民街や老朽建築物は取り壊わして整理統合、街も年々美化され高層建築物が続々と建つて、エレベーター、冷房設備等も増加しています。此のポチントン飛行場は、今次太平洋戦争中日本軍がカンボジアに進駐した際に建設したものだ。そこで、現駐日カンボジア大使シンバル氏の岳父が日本軍に協力工事を請負つたと現地でききました。現在フランスの援助により着々と整備拡張され、カンボジアの空の玄関口として平和目的のため利用されていることは喜ばしいことだと思ひます。

此の国第二の都会は、バットアンバン市若しくはコンボンチャム市と云われ、人口は約五万人程で

アンコール・ワット (Angkor Wat) の全景



あります。バタンバン市は農産物、特に米の集散地として栄え、コンボンチャム市はゴムの産地として有名であります。その他プールサツとは軍都として、コンボンチユナンは土器焼物の産地として、タイ湾に面したカンポットは漁港として、亦塩の産地として夫々栄え、観光地としては、有名なアンコールワットを有するシエムラップ、避暑地と海水浴を兼ねたケップ、政府公認の賭博場のあるポコールがあり、開港場としては、フランスの援助で出来たシアヌークヒルがあります。現在此のシアヌークビルとプノンペンを結ぶ鉄道が、チェツコの援助で敷設中で、来年中に完成の予定です。尚おバイリンは寶石ジルコンの産地として有名で、ビルマ

人が多数ジルコン採取に従事しております。ビルマ人が多いせいか、ビルマ風の立派なお寺があり、町の様子も他と違うようです。町はカルドム山脈の端、タイ国境に近い高原都市であります。その他南部にコンボンズプー、タケオと大体一万位の町があり、北部にはクラチエ、ストーンレーンという町があります。何れも州庁の所在で主として農産物の集散地として発達した町であります。国境の町としてはタイ国境に接するポイベットが有名で、カンボジア唯一の鉄道は、プノンペンから此処まで、バンコックへ行く人は此処で乗り換えます。

市街地の形態は、プノンペン市をはじめ何れの都市も、中心は中国街、中国式煉瓦積の亭仔脚のある家が道路の両側にならんで立っています。然し、コンボンチャム市はフランス人が作った町とすることで、町全体が公園のような感じが致します。静かな綺麗な町です。

二 人口、面積及び地形

カンボジア全体の人口は、昭和三十七年六月に行った人口センサスによりますと、五百七十万乃至八十万で、此の五年間に急速に人口は増加したと報じております。

面積は凡そ北海道の約二倍強の一七二、五一一平方キロメートルありまして、中央に琵琶湖の約四倍あるグランラック別名大湖があります。雨季になると増水して更に約四倍の大きさに膨脹し、それを取囲んでいる国道があたかも堤防を成している感が致します。此の大湖を中心にヴェトナム國境の安南山脈、タイ湾に面したエレフアント山脈、これに連らなるカルダモス山脈に抱えられた平原の國であります。此の國の生命を形成している雄大なメコン河は大湖の東、安南山脈よりを蛇行形に流れ、此の大湖より流れているトンレサップと、プノンペン市で合流しています。雨季になりメコン河が増水してくると、此のトンレサップが猛烈な勢で逆流してメコン河の水が大湖に流入、国内に降った雨はそのまま溜って国土は一面水浸しとなります。昨年は特にひどく、六十年來の洪水とかで、プノンペン市が水浸しの危険に曝らされ、トンレサップの堤防兼国道は所に依り一米以上も土襲を築いて水の侵入を辛うじて防いでいました。

これについて面白い話があります。現地で求めた「ヒストリー・オブ・カンボジア」という本に依りますと、増水と同時に逃げおくれた蛇は、木に登り、増水と共に頂上へ向い、遂にはどぼんと水に落ちて魚の餌になるといふようなことが書いてありました。亦コンボンチャムの畜産センターの人に聞いた話しに依ると、メコン河増水のため、コンボンチャム市から畜産センター設立予定

地這一面湖となり、舟で増水状況調査を行ったそうであります。その時多数のさるが木の上において、近づくとはほとんど水に飛び込んで逃げていたそうです。事実雨季になると、蛇・野ねずみ等は道路によく出て来て交通の邪魔をいたします。

気候は常夏の国でありまして大変暑く、雨季と乾季は割合にはっきりしています。雨季は大体五月に始まって十月に終わります。雨季といっても、日本の梅雨と違って、さっと降ってさっと晴れるスコールの式もので、至極あっさりしたものです。乾季といっても、全く雨が降らないというわけではなく、時には思い出したように降ることがあります。然し燒石に水であることは事実です。田圃などは一米以上も深く地割れがしています。

此の国はメコン河と大湖を中心に広大な平原の国、北部と南部に僅かな山岳地帯があるのみです。耕地面積はカンボジアの統計によりますと、一、八三七、〇〇〇ヘクタール（一九三七—一九五八年迄十年間の平均）ありまして、小作人は殆ど無く、米所バットタンバン州では平均五ヘクタールとあります。灌漑排水を徹底的に行えば、耕地は幾らでも出来ます。メコン河の開発が望まれる所以であります。

三 宗教及び政体

宗教は小乗仏教、国内の到る所に立派なお寺があります。朝六時頃起きると、黄色い布を着た坊さんが十人位一列にならんで方々のお寺から托鉢に出かけるのを到る処で見ることが出来ます。坊さんの数は大体六万五千人、五人に一人の割合と云われています。現在は人口の増加と共に割合は変わっていると思います。お寺は大体二千七百許りありまして、国民の坊さんに対する経済的負担は非常に大きいようであります。勿論仏教は国教でありまして、専任の宗教大臣がおかれています。その他、キリスト教、回教等ありますが、其の数は微々たるものようです。

政治体制は立憲君主政体であるが、現在前国王メロドム・スラムリトが一九六〇年崩御して以来、シヤヌーク王子は即位することなく王位空席のまま、自ら元首を宣言、引続き内閣を組織しています。国民のシヤヌーク王子に対する信頼は絶対で、その信望は現人神の如く、シヤヌーク王子のためならば如何なる経済的、精神的犠牲をも厭わず、寧ろ進んでこれに協力しています。シヤヌーク王子健在なる限り、カンボジアは、隣国の南ヴェトナム、ラオスの如き内乱は絶対に起らず、平和国

家として発展の一途をたどるものと思われれます。完全中立主義を宣言して以来、東西兩陣營から援助を受け、近代国家へと目覚しい発展をとげつつあります。將に彼は、東南アジアの英雄的存在であると思えます。

四 人 種

私は民族学者でないので、此の方面の知識は全くないのであるが、私が見たり、きいたり、本で読んできたことをもとに素人判断に依り思いついたまま書いて見ました。

今年二月の人口センサスに依り、約六百万と称せられるカンボジア人の中核をなしているものは、クメール人種であります。クメールの由来は、約千年前にかの有名なアンコールワットを建設し、南ベトナム、タイ、ラオスを併合したクメール帝国にあるようで、カンボジア人は自らクメールと称して誇りをもっています。カンボジアという名称は、それよりも更に一千年の昔、今から二千年以上も昔に、カンボジアの歴史によりますと、カンブツヤ (Kambuja) という一大帝国があり、中国では扶南国と称し、その起源は詳らかでないそうだが、どうも此のカンブツヤがカンボジアにな

つたような気が致します。

此のクメール人は、東隣のヴェトナム人とは全く違い、西隣のタイ人や北隣のラオス人に非常に良く似ているように思われます。純粹のクメール人は、色は黒くて、割合に背が高くスマートであり、お人好のように思います。ヴェトナム人は、色は中国人よりも白く感じられ、背も低いようであり、中国人以上に商才もあり、どちらかと云えば中国人に近いようです。

此のクメール人について、ヴェトナム人、中国人の順に多く、現在では此の三種が混血して、カンボジア人を形成しているようです。その他、山岳地帯にモイ族と云って、焼畑や、狩猟を業とする人種がおります。バンタンバン州には、タイ人、ビルマ人も少数ではありますが住んでいます。

五 服 装

現在では殆ど西洋化され、次第にカンボジア独特のサロン姿はすたれていくようです。男女共に家に居る時は別として、外出時は全部洋服で、僅かに農村でサロン姿を見ることが出来ます。但し王室での正式の儀式の時は、男女共に古来の服装をするのが正式のようで、巻いたサロンの端をま

くりあげて、モンベの様な恰好をしています。感心したのは、どんな田舎に行っても、女の子に至るまで、例え上半身裸でも、ブラジャーだけは必ずつけていることです。これはフランスの保護領時代の名残りかと思われれます。日本婦人でブラジャーを用いている人は全婦人数の二十七―二十八%といわれます。

ヴェトナム婦人はヴェトナム独特の服、即ち薄い透きとおるような、日本の神代の時代を思わせる様な、ずぼんに前垂れを腰につけたひたたれを風にひらひらさせながら颯爽と歩いています。そして絶対に彼女等は中国服も、サロンも着ないようです。これに引換えクメール婦人は絶対にヴェトナム婦人の服装はしないし、中国服も着ないようで、サロンをまとっているようです。色も黒が多く、一般的に地味であります。然し近時若い婦人は、此のサロンに工夫をこらして、タイト・スカート式に改造したり、西洋式のスカートに変わりつつあります。

六 赤坊の抱きかた

習慣として面白かったのは赤ん坊を抱く方法であります。赤ん坊は必ずといってよい程横抱き

にして、腰骨の上に安定させて片手で支えています。私も此の方法を実地に行つて見ましたが仲々工合の良いものです。但し股を開くので蟹股になる率は非常に多く、町を歩く御婦人は皆な蟹股のように見えて仕方がありませんでした。

七 家

家の構造は、南方特有の足高式、何千年来髻さと水害それに猛獣の害を防ぐために工夫されたものであろうし、殆どが木造でありました。私も一度住みたいと思つたが、遂にその機会を得られなかつたが、何度か現地人を訪問した際に家に入る機会を得ましたが、仲々快適のようでありました。中国人は如何なる場所に於ても、足高式の家は作らないようで、地面から直接日本と同じように建ててありました。但し市街地は殆ど煉瓦積の家で、下は商店、二階以上住宅という中国式のものも多く、上流階級の人々は西洋式建築様式を取り入れて、木造よりは寧ろ煉瓦積建築が多いように見受けられました。

八 娛 楽 機 関

此の国は政府公認の賭博場ポコールを除いては一切の賭博行為を禁ぜられており、従って国民の娯楽の王座は映画、プノンペン市には現在、約五十程映画館があり新しいもの程設備は良く、冷房の設備のある映画館は約十程あります。さすがに中国の影響は大きく、中国映画が一番多く且つ夫々の中国語で上映されています。夫々の中国語というのは、御承知のとおり中国は人口約七億もあって、北京語を国語と称して標準語としているが、各州毎に発音が違うそうで、広東語、海南島語、潮州語、福建語と色々あるようですが、南中国方面から東南アジアにかけては広東語が代表的のようであります。勿論文字は同じで、対白国語とある時は、必らず字幕が出ます。次いで、インド映画、アメリカ、フランスという順序のようです。近時日本映画も続々と上映されていますが、現在片貿易の關係か数は非常に少いようです。カアピートル（中国語で金部）という映画館の支配人は非常に親日的であるのか、日本映画の大多数を此処で封切りしていますが、日本語の交ったポスターが映画館の前に一杯はりつけてありました。最近のヒットは「香港の夜」でありました。これは香港のスター尤敏さんが主演であったためか、特に現地中国人の間で評判がよかったそうです。私

も早速見ましたが対白が悲しいことにカンボジア語に吹き替えてあるので、さっぱりわかりませんでした。ただ絵を見るだけでありました。カンボジアも最近映画の製作をはじめたようですが、内容的にも、技術的にも未だ幼稚で見られたものではありません。私は一通り各国の映画を見ましたが、やはり中国映画が日本人に一番びったりとアピールするのではないかと思います。日本映画に對する日本語のポスター(多分日本国内で使用のもの)は地方の都市にある映画館でも見ることが出来ます。私はボタンバン市に一年七ヶ月間住んでいましたが、映画以外に娯楽らしい娯楽もないので、時々映画を見に行きましたが、日本映画のポスターを見るのが実に楽しみでありました。映画観覧料は一般庶民には高いらしく、ブノンベンの一流館では一等五十リエル(五〇〇円)ボタンバンでは一等三五リエル(三五〇円)、日当二五リエルから三五リエルの労働者階級にはおそれと見るわけにはゆかず、従ってボタンンの映画館では、これで営業が成立つのかと思われる入りが悪いのです。ブノンペンではそれ程でもありませんが、空席は沢山あります。然し如何に入りが悪くても、最下級の四等席を除いて、總て指定席、上映途中からは絶対にお客を入れることはありません。定員制は確実に守られています。

ダンスホール、バーなどの社交機関は、ブノンペン市以外には目下のところありません。ブノン

ベン市にはバーが六カ所、ダンスホールが六カ所位ありまして、此処に集つて来るものは外国人、金持の華僑及び上流階級のカンボジア人等で、一般庶民には高嶺の花のようです。参考迄に値段をあげますと、ジョニウオーカ、ヘネシイ等洋酒類はダブルで六十リエル（六百円）ビール三十リエル位、ダンスホールでは飲物は此の二倍位で、中国人ダンサーは一時間百リエル、カンボジア人ダンサーは五十リエル、ヴェトナム人ダンサーはその中間位で、二、三人でバー、ダンスホールという順序で遊んで大体千リエルあれば一晚充分ではないかと思えます。

九 スポーツ

シヤヌーク王子は、貧弱な国民の体位向上をはかるため、スポーツに非常に力を入れ、自ら率先垂範、各州巡幸の際必ずスポーツ大会を開いています。各職場には必らず、バスケットコート、バレーコート等が設置してあり、州庁の所在地には必らずスポーツセンターがあり、最近は何種スポーツの全国大会を行つて、記録も向上しているようであります。然し水準は低く日本とは問題になりません。主なるスポーツは、陸上競技、水泳、サッカー、バスケット、バレーボール、バドミ

ントン、テニス、拳闘等で野球はやっておりません。亦柔道は非常に盛んで、毎年各州對抗選手権大会を開き、日本大使館よりトロフィーを出しております。ブノンペンには柔道クラブが二つあり、クラブ員は日本語を使って熱心に練習に励んでおります。日本からも、コロンボプランで講道館より先生が派遣されて（最近では女川六段）います。亦柔道はカンボツアの軍隊にも採用され、柔道を織り込んだ戦闘訓練が熱心に研究され、私はコンボチャムの軍隊が、フランス人の指導の基によく訓練されたその型を見て感心致しました。

十 交 通 機 関

鉄道は現在ブノンペンからタイ国境の町ポイベット迄一本あるきりで、狭軌であります。客車は一日に三本上下同時に発車、普通列車、快速列車、寝台列車で、快速列車はディゼルカー、機関車は石炭の代わりに薪を焚いています。快速列車はバツタンパン、ブノンペン間二七〇軒、約四時間半で行きます。

バスは非常に発達していて、各都市は此のバスで殆ど結ばれています。荷物はバスの屋根にのせ

て、人間と一緒に目的地迄運びます。此の荷物の積降ろしは非常に巧みで、バスの運行中でも車掌がサーカスの如く仕事をしています。

プノンペン市をはじめ、各都市にはタクシーはなく、シクロと称する三輪車があつて、市民の足となつています。最近はおートシクロが増加しています。

自動車ブームはカンボジアも同じで、高級車がどんどんと入つて、プノンペン市では駐車場に困つています。フォルクスワーゲン、ベンツ、オペル、プウジョー、シトロエン等の西独、フランスの車に人気があるようです。

自転車の普及はすばらしく、男女学生は殆ど自転車通学です。校庭にずらつと並んでいる自転車は見事です。オートバイ、スクーターの普及が、漸次自転車に取つて替りつつあります。

十一 衛生について

街の美化については、政府は非常に力を入れているらしく、プノンペン市のみならず、地方の州庁の所在地も年々綺麗に整備されています。そして子供の遊園地も併設され、子供達が喜んで遊ん

ですが、日本と違って、日中は暑いので夕方太陽が沈んで涼しくなりはじめてから夜の十時頃迄ぶらんこ等に乗って大人も子供も楽しんでます。

都市の美化とともに、水道設備も非常に改善されて来ております。特にプノンペン市では、急激な人口増加に対応して、設備の拡充と改良に着手、昭和三十四年に久保田水道が技術協力の一環として其の工事を請負い、三十五年の暮れに完成して以来、従来約五万人分の供給量と云われておったものが一挙に二十五万人分に拡充され、且つ水も非常に綺麗になりました。然し水の供給量は人口に比例して非常に少いので、第二期拡充計画を目下立案中とのことであります。

医療設備も年々強化され、四、五年前迄では盲腸の手術さえ出来なかつたそうであるが、現在ではソ連の援助により広大な総合病院が出来、フランスは全館冷房の立派な総合病院を建て、国立病院も年々整備され、地方都市には診療所が各所に建てられて、着々と其の成果ががりつつあります。今ではマラリヤ、デング熱等は相当辺鄙な地方に行かなければ見られないようです。国民の衛生知識も年々向上しております。

十二 水 浴

カンボジアでは、暑さを防ぐ手段として一日数回水浴を致します。プノンペン市では殆ど見ることが出来ないが、一步プノンペン市を出ると、そこいらの川や、沼、溜水等で男女がサロンのまま水浴をしています。水の色は勿論真赤です。口を濯いだり顔を洗ったりしています。その傍らで牛が数頭遊んだりしています。勿論石けんなど使う者は殆ど見かけません。さて水浴が終つて濡れたサロンを新しいのと取替えるのですが、その方法は実に見事で、絶対に肌を他人に見せません。或る日本人がホテルの窓から双眼鏡で一生懸命何度も見たが、どうしても見ることが出来なかつた、と述懐していました。私も参考のため川端に立つて見たのであるが、サロン着替方法は実に要領を得たもので、新しいのを頭からかぶつて、それから濡れたサロンを下へ落して脱ぐのです。なるほど、これでは見ることが出来ないと思ひました。脱いだサロンは其の場で水で洗つて干し、此の次の着替えとなります。簡単なものです。

十三 魚 捕

雨季になると河川や湖沼地帯は増水して一面水浸しになり、家の床下迄水が来ます。農村の子供達は、家から釣糸を下げてのんびりと魚釣を楽しんでいます。雨季も終りに近づき水がひきはじめると、今迄水に浸ってた陸地が見えはじめると、道路端或は池や沼の縁に立って魚釣をしています。釣道具は全く日本と同じであります。浮きもついています。

更に水がひいて来ますと、大人は投網を使って、盛んに魚捕りをしています。メコン河とか、トネレサップ等の大河では舟から投網を使い、仲々大きい魚を捕っています。更に水がひき、全くの乾季になると、池や沼或は道路の両側にある溝は、深い所のみ僅かに水が残り、魚は其処に自然に集まってくる見え、暑い日中は昼寝をして、夕方近く少し日が落ちる頃になると、大人も子供も男女が入り混って、小さな水溜りに、人の方が魚よりも多いのではないかと思う位人が入って、ざるや網を使って盛んに魚をとっています。中には手捕をしている者もいます。ざるですくう方法は全く日本と正反対で、手前の方にすくっています。同じ場所で毎日沢山の人が入って捕っているのだ

すが、随分魚がいるものだと思心させられます。魚の大きさは、小ぶな位から中ぶな位のもので、小さなえびもいるようです。

私はバツタンパン川で朝早く朝食をたべに川端のレストランに行きました。その時小舟をレストランの下水道の近くの恰好の場所につけて、左手で魚の腸を布に包んでもみ乍ら魚寄せを行い、右手で長さ一米足らずの竿に五十糎位の釣糸をつけて、寄って来た魚を釣っているのを見たのですが、一秒に一匹位の割合で中ぶな位の魚を釣り上げていました。ただ両手を機械的に一定のリズムで動かすだけで結構です。魚はひとりでに釣針に引っかかるのです。釣上げた魚は舟上で独で釣針からはずれ、ばたばたしているうちに、舟底のいけすに入ってしまう。土地の人にきいた話ですが、雨季は増水して水面積が増え、魚が散らばって魚捕りが困難な上、繁殖時期でもあります。然し乾季になると減水して水面積もせばまり、魚も一カ所に集り、手捕が出来る位に魚は沢山いるというようなことを言っていました。

私が昭和三十四年八月より前後三回カンボジアに旅して、滞在期間も通算約二年、其の間政府役人を始め、色々な人と話しをしました。総じてカンボジア人は親日的であるということ。二年の滞在期間中、私は一度も泥坊や殺人強盗、愚連隊などきいたこともなければ、見たこともありません。全く静かな国であります。カンボジア人は長い間のフランスの保護領から開放され完全独立を勝ち得た喜びは、そのまま徹底した国粹主義者となり民族意識が非常に強いようです。然し性質は善良で、気質は温厚そのものであるが、何となく物欲しそうな態度が見えるのは、単に貧しいからと云うだけではなさそうであります。

太平洋戦争中、日本軍が各所に駐屯していたせいか、日本語の上等、上等ない、の言葉は半ばカンボジア化され、日本人を見ると直ぐに上等、上等ないと云われ苦笑せざるを得ません。亦、日本人は余程体格や動作に特長があるのか、街を歩いていても直ぐに解るようです。日本、若しくはジャボンという言葉が、何処に行っても街角からきこえて来ます。

日本軍は余程バナナが好きであったと見え、私が果物を買に行けば、必らずバナナといひます。彼等は日本人はバナナが好物であると思っているようです。これは半ばあたっていますかね、日本人で、バナナの嫌いな人はいないようですからね。従って私はその時は、決してバナナは買わず、

意地を張って別の果物を買うことにしていました。

日本製品の進出は目覚ましく、日用雑貨品から電気器具に至るまで、プノンペン市をはじめ全国に見られます。街燈は殆どナシヨナルの螢光燈を使用しています。そして品質も相当に評判が直しいようです。日本のレコードも沢山売っています。但し少々値段は高いように見受けられました。

カンボジア人はよく怠け者だと、聞きますが、果して怠け者でしょうか。私は月に平均して二度位任地バクタンパンから自動車でプノンペンへ参ったのであるが、朝五時頃には農民は牛車を仕立てて、一家総出で仕事に出かけていました。自動車の故障で夜半十二時頃ドライブしたことがありますが、その時トラックターで月明りを利用して一生懸命田圃を耕起しておりました。国道は殆ど舗装されていますが、地盤が悪く且つ気温が高いせいか、直ぐに駄目になります。勿論工事そのものにも問題はあると思います。それで各所で修理を行っています。そこに働いている人夫は女子供が多く、炎天下汗を流して一生懸命働いていました。勿論日中の一番暑い十一時頃から二時頃迄は休みます。その他、各所で一生懸命働いているカンボジア人を見ましたが、日本人程勤勉でないとしても、私は必らずしも怠け者であるとは思いません。一年中暑い熱帯地で働くカンボジア人を見る時、よく体がつぶくものだと感心させられました。

以上あらまし、何にかわけのわからぬことを私の拙い文章で書きました。幾らかでも御参考になれば幸甚に思います。

筆者紹介

後藤 寛 農林省大臣官房

白石代吉 元関東東山農試場長

及川浩吉 農林大臣官房
海外技術協力官

野津 聖 元厚生省医務局

岡橋道子 国際電信電話株式会社
元カンボジア派遣専門家

—海外技術協力叢書 I—

カンボジア篇

昭和 37 年 11 月 10 日 発行

編集兼発行者 海外技術協力事業団

発行所 海外技術協力事業団
千代田区神田鍛冶町 2 / 1
電話(270) 6911 (代表)~8

印刷所 株式会社 文 唱 堂
千代田区神田佐久間町3-37
電話 (851) 0111 ~ 5

非売品

OVERSEAS TECHNICAL COOPERATION AGENCY

